矢田新遺跡

地方道改築事業 南加賀道路（粟津ルート）に伴う新設道路工事に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書

2018.3
石川県小松市埋蔵文化財センター

例　言

1. 本書は、地方道改築事業 南加賀道路（粟津ルート）に伴う新設道路工事に係る矢田新遺跡発掘調査報告書である。
2. 調査面積・調査期間・調査担当者は次のとおりである。
   [調 査 地]　石川県小松市矢田新町地内
   [調査原因]　地方道改築事業 南加賀道路（粟津ルート）に伴う新設道路工事
   [調査面積]　1,410m^2
   [発掘調査]　2016. 8.29 ～ 2016.12.14
   [調査担当]　宮田　明
3. 発掘調査は、㈱太陽測地社の支援業務を活用して実施した。
4. 出土品整理並びに実測・製図は臨時作業員を雇用して実施した。
5. 遺構の実測及び写真撮影、並びに遺物の写真撮影は宮田が行った。
6. 本書の執筆・編集は宮田が担当した。
7. 発掘調査に係る遺物・図面・写真等の資料は、すべて小松市教育委員会で一括保管している。

凡　例

1. 本書に示す座標（VII 系）は世界測地系に準拠した。
2. 本書に示す方位は座標北である。
3. 本書に示す高度は標高（T.P. に準拠）である。
4. 本書に示す土色はマンセル表色系に準拠している。
5. 本書に示す土性、コンシステンス及びその他の属性は、日本ペドロジー学会の示す判定法を参考として表記した。ただし、厳密なものではない。
6. その他の凡例は、本文中に適宜示す。

目　次

本　文

I　位置と環境 …… 1
II　調査の概要 …… 13
III　遺構と遺物 …… 15
IV　まとめ …… 18

図　版

矢田新遺跡 平面図 1 ～ 14 …… 図版 1
矢田新遺跡 遺構実測図 1 ～ 5 …… 図版 15
矢田新遺跡 出土遺物実測図 1 ～ 5 …… 図版 20

写真図版

矢田新遺跡 発掘調査 1 ～ 6 …… 写真図版 1
矢田新遺跡 出土遺物 1 ～ 2 …… 写真図版 7

巻　末

報告書抄録

第Ⅰ章　位置と環境

第 1 節　地理的環境

1　市勢と沿革

小松市は石川県南部に位置し、東西約 20km、南北約 30km に跨る市域は面積 371.13km^2 を測る。南は大日山（1368m）で福井県勝山市と境し、ここより約 5km 北に位置する鈴ヶ岳（1174m）を水源とする梯川流域を包括した市域をなしている。市域の大半は山岳地であり、約 11 万人を数える人口の大部分は北西部の狭長な平野部に集中している。近世城下町として成立し、商業都市として発展した小松町を核として近隣 7 町村を合併して昭和 15 年市制施行、その後 2 次にわたる編入合併を経て現在に至っている。

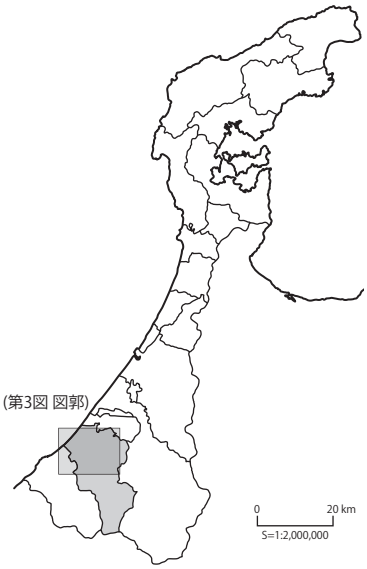


図 1　小松市の位置

2　加賀三湖と月津台地

小松市の山岳地（加越山地）は新第三紀火砕流堆積物よりなるが、この外縁を縁取るように、第四紀高位段丘がなだらかな丘陵を形成している。ここより北にせり出すのが月津台地で、標高は、高所で約 20m 程度あるが、平均的には 5 ～ 10m 程度で、なだらかな起伏の連続した中位段丘である。大きな開析谷で区切って、北を御幸野台地､南を矢田野台地と呼ぶこともある。かつて、周囲は浜堤列で海と隔てられた潟湖が囲み、泥質の湿地や湿田が広がっていたが、現在は今江潟の全域、柴山潟の約 3 分の 2 が干拓され、湿田や湿地も月津台地の採取土で埋め立てて乾田化されている。

梯川は、大杉谷を北流し、郷谷川・滓上川等を合わせて国府台地をえぐりながら西に向きを変え、八丁川・前川等を合わせて、安宅で浜堤を突き破って日本海に注ぐ。図 2 は明治時代の河道と水域を合成したものだが、幕末の頃までは、細かく複雑に蛇行していた。

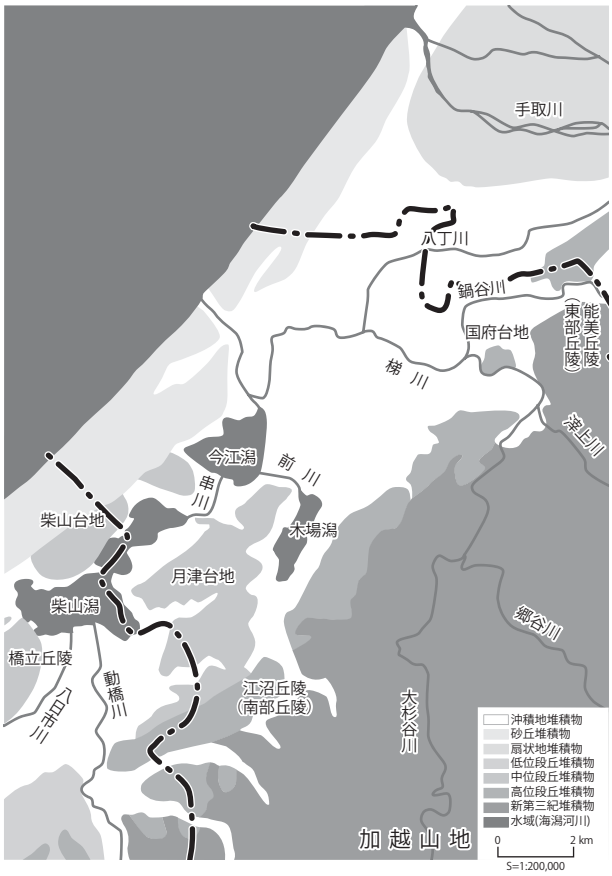


図 2　小松市の地形

3　梯川と梯川デルタ

梯川は掃流力が弱く、自然堤防の発達が悪い平坦な沖積平野を形成した。河道が南に折れる地点が小松城跡で、小松町は埋没したもっとも内陸側の浜堤列上に立地している。梯川デルタはこれより下流には形成されず、河道は手取川デルタとの境界に当たる最も低い位置にある。複雑に蛇行する河道はしばしば氾濫したため、明治維新直後から河道の直線化工事が繰り返され

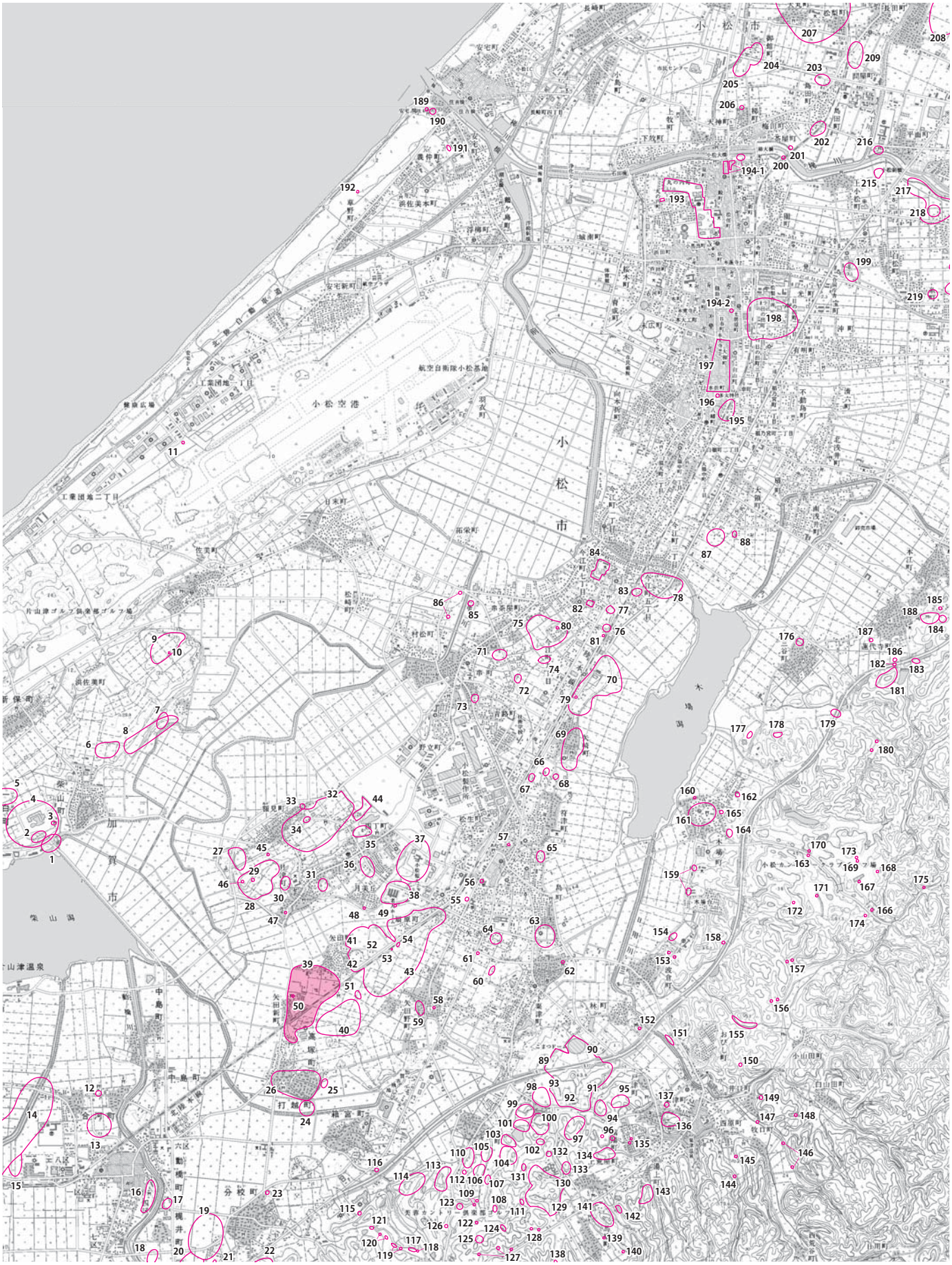
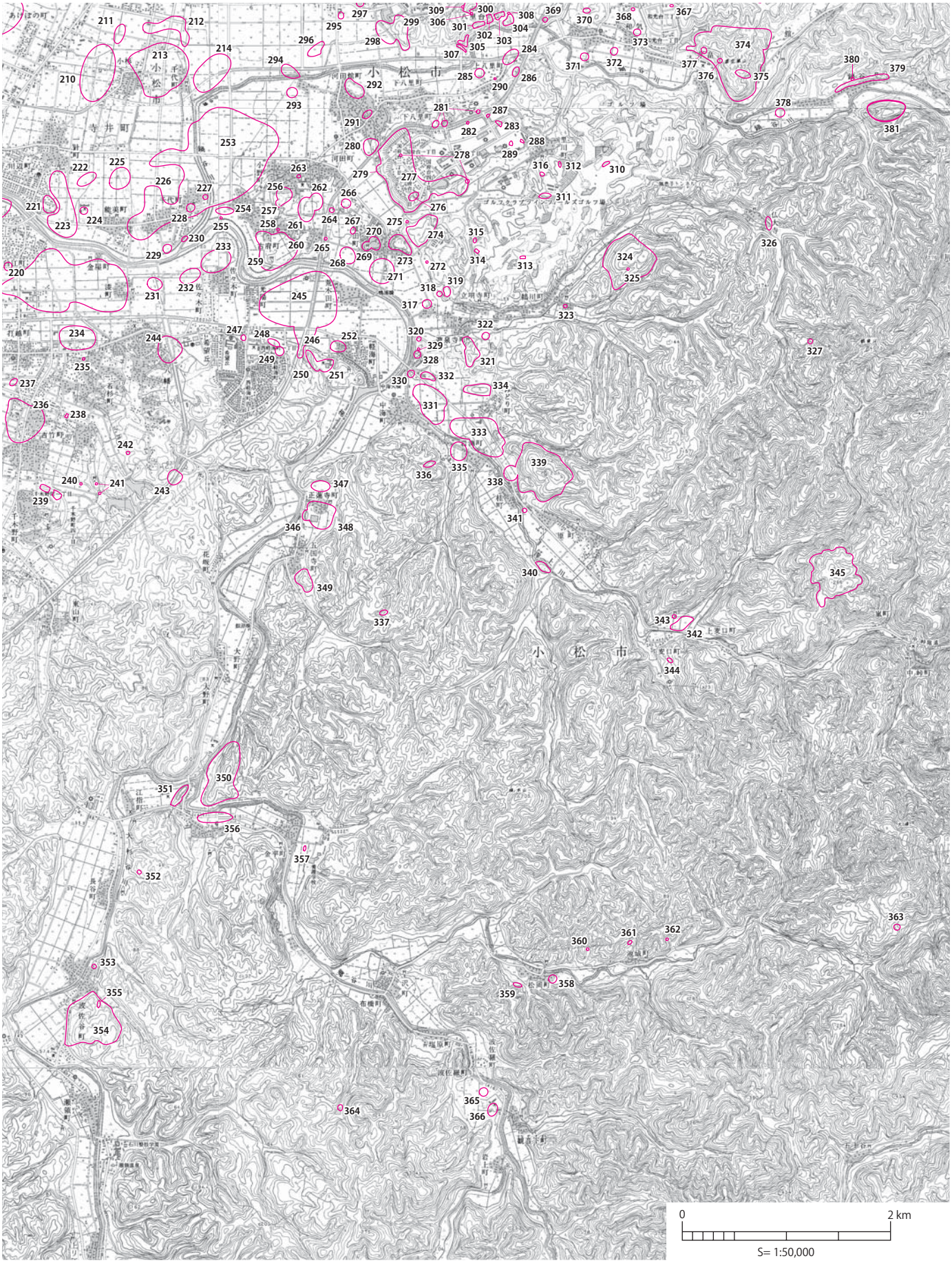

小松市
小松空港
航空自衛隊小松基地
木場潟
柴山潟
加賀市
片山津温泉
片山津ゴルフ倶楽部ゴルフ場
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194-1
194-2
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
215
216
217
218
219

図３　遺跡分布図


小松市
寺井町
小松市
小松市
0
2 km
S= 1:50,000

てきた。明治 44 年～大正 12 年に石田橋～安宅間の開削工事により、現在の河道になり、河川改修は現在も続いている。

本報告で言う梯川デルタとは、事実上、梯川と今江潟・木場潟を結んだ領域を指している。図 2 に表示はないが、この領域には明治 20 年頃までは扇形に小河道群が残っており、灌漑に利用されていた。この中央を貫流していた猫橋川が本流とされ、これら小河道群は、デルタを形成した梯川旧河道群と見なされる。傾斜の少ない平坦な地形はしばしば湛水被害を引き起こし、明治 32 年の耕地整理法以降、用水確保と湛水防除の必要から用排水路の整備が繰り返し行われた。

第 2 節　歴史的環境

1　旧石器～縄文時代の遺跡

発見例自体は決して少なくないが、小松市内では資料が乏しい。能美丘陵界隈で言えば、河田山遺跡（276）や八里向山 A ～ F 遺跡（300 ～ 305）など、散発的に遺物や遺構が確認された例はあるが、集落遺跡としての確認例は断片的である。能美市能美丘陵東遺跡群では、宮竹庄が屋敷 A ～ D 遺跡や宮竹うっしょやま A･B 遺跡（いずれも図郭外）など、縄文時代中期を中心に豊富な資料を得るに至っている。遺跡のほぼ全域を調査したこの両者は非常に好対称をなしている。

一方、月津台地では、念仏林遺跡（37）が集落遺跡としては代表的な調査例と言えるだろう。近現代の開発も含め、多くが後世の破壊を受けて潰滅的な状態の中で、集落像の一事例を提供している。能美丘陵でも月津台地でも、縄文時代の集落遺跡の多くは短期間に営まれた小集落で、南加賀では能美丘陵が分布的中心をなすと見なされる。

2　弥生時代の遺跡

八日市地方遺跡（198）が大規模な環濠集落として特筆され、中期はここだけに収斂する趨勢であり、後期頃から古墳時代前期にかけて梯川周辺に広い範囲に集落が点在する景観となる。代表的なところでは、高堂（たかんどう）遺跡（図郭外）、大長野 A 遺跡（210）、漆町遺跡（220）、荒木田遺跡（245）のように、広大な領域の複合遺跡で法仏期頃以降の遺物が出土していて、月影期頃にかけては、河田山遺跡（276）や八里向山 A 遺跡（300）で高地性集落が確認されている。ただ注意が必要なのは、広大な領域の複合遺跡というのは、現集落からはずれた範囲であることが前提であり、範囲の狭小な遺跡は、現集落と重複して確認できないことが多い。

3　古　墳

能美地域の首長墓の系譜とされる末寺山 5・6 号墳、秋常山 1 号墳、和田山 5 号墳（いずれも図郭外）を擁する能美古墳群が手取川河道域と目される領域の南に接して築造される。造墓は弥生時代末に始まり、古墳時代を通じて造墓が継続する、能美地域の中核的古墳群と評価されている。

能美丘陵界隈では、中期後半以降、河田山古墳群（277）や下開発茶臼山古墳群（図郭外）など、中小規模の円墳・方墳が尾根筋に密集して混在ないしいずれかのみの構成で築造される群集墳が各所に分布する。また、平野部では、千代オオキダ遺跡（226）で、削平された方墳からなる前期段階の古墳群が発見され、新たな知見を得るに至っている。

月津台地では、小規模な後期古墳が疎らに分布する趨勢で「三湖台古墳群」と総称され、古墳群としては江沼地域に属する。造墓が始まる早い段階では臼のほぞ古墳（44）や御幸塚古墳（82）などの中規模の前方後円墳が見られるが、主体は小規模な円墳で、埴輪を伴う。矢田借屋古墳群（52）のような密集する造墓のあり方は、三湖台古墳群では今のところ特異な事例といえるだろう。

埋葬施設は、木棺直葬から後期前半に木芯粘土室、さらに後半に切石積横穴式石室が採用される。

4　古墳時代～古代・中世の遺跡

集落遺跡の趨勢で言えば、6 世紀以降 8 世紀にかけては集落の再編期に当たり、相対的に資料が稀薄になる傾向があり、7 世紀頃を前後して廃絶する集落と出現する集落がある。

7 世紀代の月津台地では、額見町遺跡（32）の発掘調査以降、矢田野遺跡（43）、薬師遺跡（70）でＬ字形カマドを設えた竪穴建物跡の発見が相次ぎ、渡来系移民の動静が、木場潟を挟む対岸の江沼丘陵を占地する古代製鉄遺跡群の趨勢との相関性において注目される。

梯川デルタ地域に目を転じると、8 世紀、在郷の財（たから）氏関連遺跡とされる佐々木遺跡（231）が異彩を放つほかは、概ね盛期が 9 世紀後半～ 10 世紀前半になる傾向が知られている。墨書土器をはじめとして、施釉陶器や風字硯など、上級に格付けされる遺物が出土するものの、大型建物や倉庫群といった目立つ遺構の発見例に恵まれず、集落遺跡の評価を難しくしている。

寺院跡として、図 3 には中宮八院（319、322、331、338、347、348、349、352）を表示しているが、現状は伝承地の域を出ない。発掘調査された寺院跡として、浄水寺（きよみずでら）跡（243）、八里向山 B 遺跡（301）、里川 E 遺跡（314）が、いずれも加賀立国以後、中宮八院以前に成立した山林寺院に位置づけられ、浄水寺のほかは短期間で廃絶している。また、目下調査中の松谷寺跡（349）では、8 世紀前半に遡る古代山林寺院跡が確認され、「松谷廃寺」として名称上の区別を明確にして取り扱うこととなった。なお、同調査で「松谷寺」は確認に至っていない。

製陶遺跡群について、6 世紀前半には二ツ梨東山古窯跡（105）で須恵器生産を開始し、二ツ梨豆岡向山古窯跡群（100）、二ツ梨殿様池古窯跡群（101）で埴輪を焼成した窯も確認されており、江沼地域の古墳出土埴輪の供給地と考えられている。以後、10 世紀中頃まで操業が続く南加賀古窯跡群が江沼丘陵を占地する。一方の能美丘陵では、7 世紀前半に八里向山 J 遺跡（地蔵谷古窯跡：309）で須恵器生産を開始し、同後半代には湯屋古窯跡群（図郭外）に操業の拠点を移動する。8 世紀前半には和気古窯跡群（図郭外）へさらに移動し、9 世紀前半まで窯を移動しながら操業が続き、疎らな窯跡群を残した。これら能美市和気地区の窯跡群は、能美古窯跡群の南群として括られ、窯 1 基あたりの出土量が多い特徴が知られている。南加賀古窯跡群との比較では、操業の盛衰が補完的な傾向が指摘される一方で、技術的にも供給的にも両者の異質性も指摘されている。

これら製陶遺跡群とほぼ重複して、製鉄遺跡群も分布する。遺跡の性質上、時代不詳の遺跡は多いが、現在までに知られる最古の例として、蓮代寺ガッショウタン遺跡（183）で製鉄に伴うと見られる製炭窯が 7 世紀後半～末ないし 8 世紀初頭に比定されている。

律令期～中世には、各所で荘園が開発されるが、発掘調査でこれに関連する成果として、徳久・荒屋遺跡、下開発遺跡（いずれも図郭外）が律令期に成立した東大寺領幡生荘に比定されている。また、白江梯川遺跡（218）、漆町遺跡（220）は中世に皇室領や京都妙法院領として経営された南白江荘に関連する遺跡とされ、前者は在地領主層の拠点となる領域と考えられている。白江堡跡（218）は、『能美郡誌』によれば、従前の白江念仏寺塔遺跡（漆町遺跡：220）周辺が推定地の一つに上がっていたが、『石川県遺跡地図』に記載される内容と、従来プロットされていた旧白江墓地で埋蔵文化財が存在しなかった事実を勘案すれば、現在までの情報に照らす限りは、ここに比定すべきだろう。

5　中世の城館・寺院・窯跡

中世城館跡や中世寺院跡は、文献や口碑によるところが大きく、その多くは一向一揆にまつわるものである。近代の耕地整理で破壊を受けた遺跡が多く、調査が入った事例は極めて乏しい。岩渕城跡（339）、岩倉城跡（345）、波佐谷城跡（354）など、縄張図が作成されている事例はあるが、いずれも、城郭としての構造が判然としない。

中世窯業について、古代の南加賀古窯跡群の分布域にほぼ重複して、在地瓷器系窯、いわゆる「加賀窯」が分布する。常滑窯の技術に基づく窯で、甕を中心とした日用雑器類の生産が主力であったとされる。操業の期間が短く、12 世紀末までには二ツ梨奥谷 1 号窯（108）で操業を開始し、湯上谷古窯跡群（143）で盛期を迎えるが、これを最後に 14 世紀代に一旦途絶え、西荒谷カマンダニ窯（図郭外）で越前窯の技術移植により一時操業するが、現在までに流通は確認されておらず、程なく終焉したといわれている。

6　近世～現代

1640（寛永 17）年、藩主を退いた前田利常の小松城入城を契機として、城下町としての小松町が成立するが、関連するところで大川遺跡・東町遺跡（194）が埋蔵文化財包蔵地（近世の町屋跡）として周知化されている。大川遺跡では発掘調査も実施され、小松市でも近世城下町の町屋の様相が明らかになりつつある。なお、前田利常の没後、亡骸は三宅野（現在の小松市河田町地内）で荼毘に付されたとされており、灰塚（264）が伝わっている。

近代窯業の関連で、南加賀では 19 世紀初めに加賀藩窯としての若杉窯（235）に始まるいわゆる再興九谷は、肥前系の染付・色絵の技術を移植して操業が軌道に乗り、若杉窯で技術を習得した陶工らによって、蓮代寺窯（186）、小野窯（263）などの民窯も操業を始めた。近代以降も民営の製陶業は引き継がれている。窯業という括りで言えば、再興九谷とほぼ時期を同じくして越前より技術移植して操業が始まる製瓦業も現代に引き継がれ、製品は「小松瓦」と呼ばれる。

さて、現集落の多くは近世以降に興った集落であり、地名も、郷名または荘園、中宮八院に所以を持つものなど見られるが、集落自体に直接の関係はなく、地名伝承にも不確かな部分が多い。史実で確かめられる伝承でも、例えば、一向一揆の古戦場伝承が古墳と結びついたり（土百古墳：81）、戦国末期の武将の墓と伝承される塚が古墳であったり（左門殿古墳：45）するなど、類似の事例はいくつか明らかになっている。加賀国府・国分寺や中宮八院などの文献史の分野で研究が進んでいる場合でも、伝承地が曖昧であったり複数あるなど、所在が確認できない現状を抱えている。

表 1　遺跡地名表

No	名　　称	種　　別	時　　代	備　　考
1	柴山水底貝塚	貝塚	縄文	
2	柴山中世墓	その他の墓	中世	
3	柴山神社遺跡	散布地	不詳	
4	柴山城跡	城館跡	中世	
5	一白 A 遺跡	散布地	古墳～古代	
6	柴山貝塚	貝塚・集落跡	縄文	加賀市指定史跡
		集落跡	古代	
7	柴山水底遺跡	貝塚	弥生	柴山出村遺跡 A 地点に所在する貝塚
8	柴山出村遺跡（A 地点）	集落跡	弥生	
	柴山出村遺跡（B 地点）	集落跡	古代～中世	柴山貝塚に隣接する地点
9	山の上遺跡	散布地	縄文	
10	佐美経塚	経塚	不詳	
11	日末経塚	経塚	不詳	
12	合河遺跡	散布地	不詳	
13	動橋遺跡	散布地	古代（平安）	
14	猫橋遺跡	散布地	縄文	
		集落跡	弥生～中世	
15	都もどり地蔵遺跡	散布地	古代	
16	動橋堡跡	堡塁跡	中世（室町）	
17	梶井衛生センター遺跡	散布地	古代	
18	梶井遺跡	散布地	古代	
19	分校 A 遺跡	散布地	古墳	
20	分校 B 遺跡	散布地	古代（平安）	
21	分校山王古墳群	古墳	古墳	円墳 2
22	分校カン山古墳群	古墳	古墳	前方後円墳 3、円墳 10、方墳 6
23	分校高山古墳	古墳	古墳	前方後円墳
24	打越 A 遺跡	散布地	縄文	
25	打越 B 遺跡	散布地	弥生	
26	打越城跡	城館跡	中世（安土桃山）	
27	額見町西遺跡	集落跡	弥生～中世	
28	茶臼山 A 遺跡	散布地	不詳	
	茶臼山 B 遺跡	散布地	縄文	
29	茶臼山祭祀遺跡	その他（祭祀）	古代（奈良）	

No	名　　称	種　　別	時　　代	備　　考
30	月津オカ遺跡	散布地	古墳・中世	
31	月津 A 遺跡	散布地	古代（奈良）	
32	額見町遺跡	散布地	縄文	
		集落跡	古墳～中世	
33	額見神社前 A 遺跡	散布地	古墳	額見町遺跡の一部
34	額見神社前 B 遺跡	散布地	縄文	額見町遺跡の一部
35	串町遺跡	散布地	縄文・不詳	
36	月津新遺跡	散布地	縄文・古代	
37	念仏林遺跡	集落跡	縄文	
38	念仏林南遺跡	集落跡	弥生～古墳	
39	**矢田新遺跡**	**集落跡**	**古代（奈良）**	
40	刀何理遺跡	散布地	縄文	
		集落跡	古代～中世	
41	矢田 A 遺跡	散布地	縄文	
42	矢田 B 遺跡	散布地	古墳	矢田野遺跡の一部
43	矢田野遺跡	集落跡	古墳～古代	
44	臼のほぞ古墳	古墳	古墳	前方後円墳
45	左門殿古墳	古墳	古墳	円墳
46	茶臼山古墳	古墳	古墳	円墳、２段築成
47	興宗寺古墳	古墳	古墳	円墳
48	念仏塚古墳	古墳	古墳	円墳
49	念仏林古墳	古墳	古墳	円墳、木芯粘土室
50	丸山古墳	古墳	古墳	円墳、切石積横穴式石室、家形石棺
51	狐森塚古墳	古墳	古墳	円墳又は前方後円墳
52	矢田借屋古墳群	古墳	古墳	円墳 14、前方後円墳 3、不明 1、木芯粘土室
53	百人塚古墳	古墳	古墳	円墳
54	矢田野古墳群	古墳	古墳	円墳 3、前方後円墳 1
55	矢田野エジリ古墳	古墳	古墳	前方後円墳
56	蓑輪塚古墳	古墳	古墳	前方後円墳
57	符津石山古墳	古墳	古墳	円墳、切石積横穴式石室
58	中村古墳	古墳	古墳	円墳、切石積横穴式石室
59	矢田野神社前遺跡	散布地	古代（平安）	
60	下粟津 A 横穴群	横穴墓	不詳	横穴 7 ～ 8
61	島経塚	経塚	不詳	
62	下粟津 B 横穴群	横穴墓	不詳	横穴 2
63	島遺跡	集落跡	弥生～中世	
64	島 B 遺跡	散布地	古代	
65	島 C 遺跡	散布地	古墳	方墳？
66	符津 A 遺跡	散布地	縄文	
67	符津 B 遺跡	散布地	縄文	
68	符津 C 遺跡	集落跡	古墳	
69	矢崎宮の下遺跡	集落跡	縄文～中世	
70	薬師遺跡	集落跡	古墳～古代	
71	串カンノヤマ A 遺跡	散布地	古代（奈良）	
72	串カンノヤマ B 遺跡	散布地	古墳	
73	串カンノヤマ C 遺跡	散布地	古墳	
74	今江向ノ山遺跡	散布地	弥生	
75	狐山遺跡	集落跡	古墳	
76	土百遺跡	散布地	縄文	
77	今江五丁目遺跡	集落跡	縄文・古墳	
78	五郎座貝塚	貝塚	縄文	
79	矢崎 B 古墳	古墳	古墳	
80	狐山古墳	古墳	古墳	
81	土百古墳	古墳	古墳	
82	御幸塚古墳	古墳	古墳	前方後円墳、小松市指定史跡
83	今江横穴群	横穴墓	不詳	横穴 4
84	御幸塚城跡	城館跡	中世	主郭と曲輪の一部
85	串古窯跡	生産遺跡	中世末	製陶
86	日末瓦窯跡	生産遺跡	近世前期	燻瓦窯
87	大領遺跡	散布地	古代	
88	浅井畷古戦場	その他の墓	中世末	県指定史跡
89	林超勝寺跡	社寺跡	不詳	
90	林遺跡（林タカヤマ古窯跡群）	生産遺跡	古墳	須恵器窯 3、南加賀古窯跡北群
	林遺跡（林オオカミダニ古窯跡群）	生産遺跡	古墳	須恵器窯 2、土師器坑 1、南加賀古窯跡北群
	林遺跡（林製鉄跡）	生産遺跡	古代	製鉄炉 2、製炭窯 4、鍛冶炉 2、鋳型坑 2
91	戸津 5・12 号窯跡	生産遺跡	古代（平安）	須恵器窯 2、南加賀古窯跡北群
	戸津シンブザワ製鉄跡	生産遺跡	古代（平安）	製鉄炉 4、製炭窯 3
92	戸津古窯跡群	生産遺跡	古代、中世（鎌倉）	須恵器窯 36（瓦陶兼窯 5）、土師器坑 19、製炭窯 2、加賀窯 1、南加賀古窯跡北群
93	戸津六字ヶ丘古窯跡群	生産遺跡	古墳	須恵器窯 7、製炭窯 1、南加賀古窯跡北群
94	戸津 1 号窯跡	生産遺跡	古代（平安）	製炭窯
	戸津ワクダニ遺跡	生産遺跡	不詳	製鉄炉 1、製炭窯 1
95	戸津ショウガダニ遺跡	生産遺跡	古代（平安）	須恵器窯 1、製鉄炉 1、南加賀古窯跡北群
96	戸津 2 号窯跡	生産遺跡	不詳	製炭窯
	戸津アナヤマ古窯跡	生産遺跡	不詳	製炭窯
97	戸津オオタニ遺跡	生産遺跡	古代（奈良）	須恵器窯 2、製鉄炉 1、南加賀古窯跡北群
98	二ツ梨一貫山古窯跡群	生産遺跡	古代	須恵器窯 12、土師器坑 28、製鉄炉 1、製炭窯 2、南加賀古窯跡北群
99	二ツ梨豆岡山古窯跡群	生産遺跡	古墳・古代	須恵器窯 4
100	二ツ梨豆岡向山古窯跡群	生産遺跡	古墳～古代	須恵器窯 12（埴陶兼窯 2、瓦陶兼窯 2）、南加賀古窯跡北群
101	二ツ梨殿様池古窯跡群	生産遺跡	古墳・古代（平安）	須恵器窯（埴陶器兼窯）3、土師器坑 3、南加賀古窯跡北群
102	二ツ梨ゲミノキバラ古窯跡群	生産遺跡	古代	土師器坑 4、須恵器窯、南加賀古窯跡北群
103	二ツ梨丸山古窯跡群	生産遺跡	古墳	須恵器窯 3、南加賀古窯跡北群
104	二ツ梨峠山古窯跡群	生産遺跡	古墳	須恵器窯 8、南加賀古窯跡北群
105	二ツ梨東山古窯跡群	生産遺跡	古墳	須恵器窯 5、南加賀古窯跡北群
106	二ツ梨脇釜遺跡	生産遺跡	古代（奈良）	須恵器窯 1、製鉄 1、製炭窯 1、南加賀古窯跡北群
107	二ツ梨横川遺跡	生産遺跡	古代（奈良）	須恵器窯 1、製鉄 1、南加賀古窯跡北群

No	名　　称	種　　別	時　　代	備　　考
108	二ツ梨奥谷古窯跡群	生産遺跡	古代（平安末）	須恵器窯 2、加賀窯 1、南加賀古窯跡北群
109	二ツ梨奥谷 1 ～ 2 号製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄 2
110	二ツ梨釜谷古窯跡群	生産遺跡	古代	須恵器窯 6（瓦陶兼窯 1）、南加賀古窯跡北群
111	二ツ梨カセイデ古窯跡群	生産遺跡	不詳	須恵器窯 2、南加賀古窯跡北群
112	矢田野向山古窯跡群	生産遺跡	古代（奈良）	須恵器窯 6、南加賀古窯跡北群
113	矢田野長尾山遺跡	生産遺跡	古代（奈良）・中世（鎌倉）	須恵器窯 4、加賀窯 2、製鉄 3、南加賀古窯跡北群
114	箱宮ドウガヤチ古窯跡群	生産遺跡	古代（奈良）・中世（鎌倉）	須恵器窯 6、加賀窯 2、南加賀古窯跡北群
115	箱宮 A 遺跡	散布地	中世	
116	箱宮 B 遺跡	散布地	中世	
117	小天王谷 1 ～ 2 号窯跡	生産遺跡	中世（鎌倉）	加賀窯 2
118	小天王谷 1 号製鉄跡（天王山 1 号製鉄跡）	生産遺跡	不詳	製鉄炉
119	小天王谷 2 ～ 3 号製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄 2
120	大久保谷 1 ～ 2 号製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄 2
121	大久保谷古窯跡	生産遺跡	不詳	
122	那谷 1 号窯跡	生産遺跡	中世（鎌倉）	加賀窯
123	矢田野カナクソダニ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄 3
124	矢田野 1 ～ 2 号横穴	横穴墓	不詳	
125	那谷 1 ～ 5 号横穴	横穴墓	不詳	
126	那谷 6 号横穴	横穴墓	不詳	
127	那谷中山谷製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄炉 3
128	上荒屋ユルイデン製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄炉 2
129	上荒屋ジャモンダニ遺跡	生産遺跡	古代（平安）	須恵器窯 4、製鉄 3、南加賀古窯跡北群
130	上荒屋サンマイダニ遺跡	生産遺跡	古代（平安）	須恵器窯 4 ～ 5、製鉄 2、横穴 1、地下式坑 1、南加賀古窯跡北群
131	上荒屋サンマイダニヤマ古窯跡群	生産遺跡	古墳・古代（奈良）	須恵器窯 4、南加賀古窯跡北群
132	上荒屋キダシ古窯跡群	生産遺跡	古代（奈良）	須恵器窯 2、南加賀古窯跡北群
133	上荒屋トリダニ古窯跡群	生産遺跡	古代（奈良）・中世（鎌倉）	須恵器窯 1、加賀窯 1、製鉄炉 1、南加賀古窯跡北群
134	上荒屋オジマヤマ古窯跡群	生産遺跡	中世（鎌倉）	加賀窯 4、製鉄炉 1
135	戸津 1 ～ 2 号製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄炉 2
136	戸津本蓮寺跡	社寺跡	中世（室町）	
137	戸津八幡神社前遺跡	散布地	古代～中世	
138	上荒屋那谷口遺跡	生産遺跡	不詳	製鉄炉 1
139	馬場ニカヤマ遺跡	生産遺跡	古代（平安）	須恵器窯 1、製鉄炉 1、南加賀古窯跡北群
140	馬場タニヤマ遺跡	生産遺跡	不詳	製鉄炉 1
141	上荒屋ホウジョウヤマ遺跡	生産遺跡、社寺跡、墳墓	古代（平安）～中世	須恵器窯 5、製鉄炉 2、墳墓、南加賀古窯跡北群
142	上荒屋ハカンタニ古窯跡群	生産遺跡	中世（鎌倉）	加賀窯 2
143	湯上谷古窯跡群	生産遺跡	中世（鎌倉）	加賀窯 10、製鉄炉 2
144	西原フルヤシキ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄
145	西原ムカイヤマカナクソ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄 2
146	牧口キドラ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄 2
147	牧口中世墓跡	墳墓	中世（鎌倉）	牧姫塚比定地
148	白山田ドヤマ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄炉複数
149	井口神社製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄
150	井口エンドウ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄
151	井口遺跡	散布地	不詳	
152	林八幡神社経塚	経塚	中世（鎌倉）	
153	津波倉ホットジ遺跡	横穴墓	中世（室町末）	地下式坑 6、2 基調査
154	大谷山貝塚	貝塚	縄文	
155	小山田コガダニ遺跡	散布地	不詳	鉱滓散布地
156	小山田スギトギ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄炉 2
157	小山田オクサダニ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄炉 2
158	津波倉ハクマイダニ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄炉 1、製炭窯複数
159	木場古墳群	古墳	古墳	円墳 4
160	木場古墳	古墳	古墳	地元で池田城跡とされる
161	池田城跡	城館跡	不詳	
162	木場温泉遺跡	散布地	縄文	
163	木場 A 遺跡（木場遺跡 H 地区）	生産遺跡	古代（奈良）	製鉄炉 1、製炭窯 2
164	木場 B 遺跡	散布地	古代（平安）～中世	
165	木場 C 遺跡	散布地	弥生	
166	木場遺跡 A 地区 (1 号遺跡)	生産遺跡	古代（平安）	製炭窯 3、鉱滓散布地
167	木場遺跡 B 地区 (2 号遺跡)	生産遺跡	古代（平安）	製鉄炉 2、製炭窯 2
168	木場遺跡 C 地区 (3 号遺跡)	生産遺跡	不詳	製鉄
169	木場遺跡 D 地区 (4 号遺跡)	生産遺跡	不詳	製鉄炉 1、製炭窯 1
170	木場遺跡 E 地区 (5 号遺跡)	生産遺跡	不詳	製鉄
171	木場遺跡 F 地区 (6 号遺跡)	生産遺跡	不詳	製鉄
172	木場遺跡 G 地区 (7 号遺跡)	生産遺跡	不詳	製鉄炉
173	木場遺跡 D 地区 (8 号遺跡)	横穴墓	不詳	横穴 1
174	大曲遺跡	散布地	不詳	鉱滓散布地
175	長谷醤油屋の山遺跡	散布地	不詳	鉱滓散布地
176	三谷遺跡	散布地	縄文	
177	三谷 B 遺跡	散布地	弥生～古墳	
178	三谷トガ谷遺跡	不詳	不詳	墳丘又は塚
179	三谷大谷遺跡	集落跡	古代～中世	
180	三谷大谷製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄炉 1、鉱滓散布地
181	蓮台寺城跡	城館跡	不詳	小規模な砦跡か
182	蓮代寺ムコンヤマ製鉄跡	生産遺跡	中世（鎌倉）	製鉄炉 1、製炭窯 1
183	蓮代寺ガッショウタン遺跡	生産遺跡	古墳	製炭窯 3、鉱滓散布地
184	蓮代寺 A 遺跡	散布地	不詳	鉱滓散布地
185	本江古窯跡	生産遺跡	近世	製陶
186	蓮代寺窯跡	生産遺跡	近世末	再興九谷「蓮代寺窯」
187	蓮代寺瓦窯跡	生産遺跡	近世前期	燻瓦窯
188	蓮台寺跡	社寺跡	中世	渋川氏菩提寺「蓮台寺」比定地
189	安宅関跡	その他	不詳	県指定史跡
190	安宅住吉神社遺跡	散布地	不詳	
191	安宅中世墓群	その他の墓	中世（室町）	
192	安宅大塚古墳	不詳	不詳	積石塚とも墳丘の葺石とも、現存せず
193	小松城跡	城館跡	近世	本丸・二ノ丸・三の丸の一部、本丸櫓台は小松市指定史跡
194-1	大川遺跡	町屋跡	近世	近世小松城下町・泥町の町屋跡

No	名　　称	種　　別	時　　代	備　　考
194-2	東町遺跡	町屋跡	近世	近世小松城下町・東町の町屋跡
195	幸町遺跡	生産遺跡	中世（室町）	鍛冶
196	多太神社境内遺跡	散布地	中世（室町）	埋納銭出土地
197	本折城跡	城館跡		本折氏居館跡伝承地の一
198	八日市地方遺跡	散布地	縄文・中世	
		集落跡	弥生	環壕集落
199	上小松遺跡	散布地	古代（平安）	
200	梯川鉄橋遺跡	散布地	弥生	梯川に分断された左岸側包蔵地
201	梯川鉄橋 B 遺跡	散布地	弥生	梯川に分断された右岸側包蔵地
202	島田 A 遺跡	散布地	古墳～古代	
203	島田 B 遺跡	散布地	古墳	
204	御館遺跡	城館跡	中世（室町）	
205	銭畑遺跡	散布地	弥生～古代	
		集落跡	中世	一向一揆・蛭川新七郎重親居館伝承地
206	梯遺跡	散布地	弥生～古代	
		集落跡	中世	
207	松梨遺跡	散布地	縄文～弥生・中世	
		集落跡	古墳～古代	
208	長田遺跡	散布地	弥生～古墳	
209	長田南遺跡	散布地	弥生・古代（平安）	
		集落跡	中世（室町）	
210	大長野 A 遺跡	集落跡	弥生～中世	
211	大長野 B 遺跡	散布地	不詳	
212	牛島宮の島遺跡	集落跡	古代（平安）	
213	千代デジロ遺跡	集落跡	弥生～中世	
214	牛島ウハシ遺跡	集落跡	縄文～中世	
215	平面梯川遺跡	集落跡	弥生	梯川に分断された左岸側包蔵地
216	平面梯川 B 遺跡	散布地	弥生	梯川に分断された右岸側包蔵地
217	白江梯川遺跡	集落跡	弥生・中世	
218	白江堡跡	城館跡	中世（室町）	白江新助景盛居館伝承
219	白江遺跡	散布地	古墳～中世	漆町遺跡の一部
220	漆町遺跡	集落跡	弥生～中世	
221	一針遺跡	散布地	縄文	
222	一針 B 遺跡	集落跡	弥生～古墳	
223	一針 C 遺跡	集落跡	弥生～古墳	
224	定地坊跡	社寺跡	中世（室町）	
225	千代・能美遺跡	集落跡	古墳～中世	
226	千代オオキダ遺跡	散布地	縄文～弥生	
		集落跡	弥生～中世	
		古墳	古墳	方墳 6
227	千代小野町遺跡	散布地	古墳	
228	千代城跡	城館跡	中世（室町）	
229	千代本村遺跡	散布地	古墳	
230	横地遺跡	散布地	縄文	
231	佐々木遺跡	集落跡	古代	財氏居宅跡（奈良）
232	佐々木ノテウラ遺跡	集落跡	弥生～中世	
233	佐々木アサバタケ遺跡	集落跡	弥生～中世	
234	打越遺跡	散布地	古代	
235	若杉窯跡	生産遺跡	近世末	再興九谷「若杉窯」、連房式登窯
236	吉竹遺跡	集落跡	弥生～中世	
237	吉竹 B 遺跡 (吉竹遺跡 19 地区)	散布地	古墳	旧河道の堰跡
238	吉竹 C 遺跡	集落跡	弥生～中世	
239	千木野遺跡	散布地	縄文	
	千木野 (A) 遺跡	古墳	古墳	方墳 8
	千木野 (B) 遺跡	集落跡	古墳	
240	幡生 1 号墳	古墳	古墳	所在不詳、現存するのは現代残土の山
241	釜谷古墳・釜谷 2 号墳	古墳	古墳	切石積横穴式石室
242	若杉オソボ山 1 号窯跡	生産遺跡	古墳	須恵器窯
243	浄水寺跡	社寺跡	古代～中世	創建は加賀国府・国分寺周辺山林寺院群の一
244	八幡遺跡	散布地	縄文	
		集落跡	弥生～古墳・古代（奈良）・中世（鎌倉）	
		その他の墓	古代（平安）	土坑墓
	八幡古墳群	古墳	古墳	円墳 8、木芯粘土室
	八幡若杉窯跡	生産遺跡	近世末	再興九谷「八幡若杉窯」、八幡 6 号墳を削平して築いた連房式登窯
245	荒木田遺跡	集落跡	古墳～中世	
246	軽海西芳寺遺跡	集落跡	縄文～中世	
247	大谷口遺跡	散布地	弥生	
248	軽海遺跡	散布地	弥生～中世	
249	亀山遺跡	生産遺跡	古墳	玉作
250	軽海中世墓群	その他の墓	中世（室町）	集石墓 9
251	軽海廃寺	社寺跡	古代（平安）	大興寺伝承地
252	西芳寺遺跡	社寺跡	古代（平安）	西芳寺伝承地
253	古府しのまち遺跡	集落跡	弥生～古代	
254	古府遺跡	集落跡	古代（平安）	
255	古府フドンド遺跡	散布地	古代（平安）	
256	十九堂山遺跡	社寺跡	古代（平安）	加賀国分寺推定地
257	十九堂山中世墓群	その他の墓	中世（室町）	
258	古府横穴	不詳	不詳	
259	古府シマ遺跡	散布地	古代（平安）～中世	
260	南野台遺跡	散布地	縄文	
261	小野遺跡	集落跡	古代（平安）	加賀国府推定地の一隅
262	小野スギノキ遺跡	集落跡	古代（平安）	加賀国府推定地の一隅
263	小野窯跡	生産遺跡	近世末	再興九谷「小野窯」
264	前田利常公灰塚	その他の墓	近世	前田利常公が茶毘に付された地とされる
265	埴田の虫塚	その他	近世末	害虫の菩提供養と駆除方法を記した石柱、小松市指定史跡
266	埴田ミヤケノ遺跡	散布地	不詳	

No	名　　称	種　　別	時　　代	備　　考
267	埴田ミヤンタン遺跡	散布地	不詳	
268	埴田ウラムキ遺跡	散布地	古代～中世	
269	埴田フルカワ遺跡	散布地	古墳	
270	宮谷寺屋敷遺跡	散布地	縄文・中世（室町）	
271	埴田遺跡	散布地	古代	
272	埴田塚	不詳	不詳	
273	埴田後山古墳群	古墳	古墳	円墳 9、木棺直葬、木芯粘土室
274	埴田山古墳群	古墳	古墳	円墳 12、方墳 4
275	御菩提所古墳	古墳	古墳	円墳
276	河田山遺跡	散布地	旧石器～縄文	
		集落跡	弥生	高地性集落、河田山 10 ～ 12 号墳が重複
		その他の墓	古代（奈良）	火葬墓、河田山 1 号墳の西側に所在
277	河田山古墳群	古墳	古墳	前方後円墳 2、前方後方墳 2、円墳 22、方墳 34、不明 1、木棺直葬、木芯粘土室、切石積横穴式石室
	河田横穴	横穴墓	不詳	地下式坑、河田山 54 号墳の南に開口
278	河田山 1 号窯跡	生産遺跡	古代（奈良）	須恵器窯、能美古窯跡南群　八里・河田山支群、河田山 60 号墳の北西斜面に所在
	河田山古窯跡	生産遺跡	不詳	須恵器窯、能美古窯跡南群　八里・河田山支群
279	河田 B 遺跡	散布地	縄文・古代（奈良）	
280	河田 C 遺跡	散布地	不詳	
281	下八里横穴群	横穴墓	不詳	地下式坑 6、横穴 1、不明 1、3 地点で計 8 基
282	穴場横穴群	横穴墓	不詳	横穴 2 基
283	上八里横穴群	横穴墓	中世（室町）	横穴 11 基
284	上八里中世墓跡	その他の墓	中世（室町）	
285	上八里 A 遺跡	散布地	縄文・古代（平安）	
286	上八里 B 遺跡	散布地	古代（奈良）	
287	上八里 C 遺跡	横穴墓	古墳	横穴 2 基
288	上八里 D 遺跡	散布地	古代（奈良）	
289	上八里 1 号窯跡	生産遺跡	古代（奈良）	須恵器窯、能美古窯跡南群　八里・河田山支群
290	上八里 2 号窯跡	生産遺跡	不詳	地下式窖窯、能美古窯跡南群　八里・河田山支群
291	谷内横穴	不詳	不詳	
292	河田館遺跡	散布地	縄文・中世	
293	下出地割遺跡	散布地	不詳	
294	佐野 A 遺跡	散布地	弥生	
295	佐野 B 遺跡	散布地	古墳	
296	佐野八反田遺跡	散布地	古代	
297	狭野神社前遺跡	散布地	古代（平安）	
298	河田向山下遺跡	散布地	縄文・古代（平安）	
299	河田向山古墳群	古墳	古墳	円墳 7
300	八里向山 A 遺跡	散布地	縄文	
		集落跡	弥生	高地性集落
301	八里向山 B 遺跡	散布地	旧石器～縄文	
		社寺跡	古代（奈良）	加賀国府・国分寺周辺山林寺院群の一
302	八里向山 C 遺跡	散布地	旧石器～縄文・古代（奈良）	
		集落跡	弥生	
		古墳	古墳	前方後方墳 1、木棺直葬
303	八里向山 D 遺跡	散布地	旧石器～縄文	
		集落跡	弥生～古墳	
		古墳	古墳	方墳 2、木棺直葬
304	八里向山 E 遺跡	散布地	旧石器～縄文	
		古墳	古墳	方墳 1
		集落跡	古代	
305	八里向山 F 遺跡	散布地	縄文	
		古墳	古墳	円墳 10、木棺直葬
		その他の墓・横穴墓	中世（室町）	集石墓 1、横穴 3
306	八里向山 G 遺跡	散布地	弥生・古代（平安）	
307	八里向山 H 遺跡	その他の墓	中世（鎌倉）	集石墓群、96 基調査
308	八里向山 I 遺跡	生産遺跡	古代（奈良）	須恵器窯、能美古窯跡南群　八里・泉台支群
309	八里向山 J 遺跡	生産遺跡	古墳	須恵器窯、能美古窯跡南群　八里・泉台支群
310	里川 A 遺跡	生産遺跡	不詳	製炭窯 2、製炭坑約 20
311	里川 B 遺跡	生産遺跡	不詳	製炭窯
312	里川 C 遺跡	生産遺跡	不詳	製炭窯
313	里川 D 遺跡	散布地	縄文	
314	里川 E 遺跡	社寺跡	古代（平安）	加賀国府・国分寺周辺山林寺院群の一
315	里川 F 遺跡	社寺跡	古代（平安）	加賀国府・国分寺周辺山林寺院群の一
316	里川 G 遺跡	散布地	不詳	
317	遊泉寺・クボタ A 遺跡	散布地	古代（平安）～中世	
318	遊泉寺・クボタ B 遺跡	散布地	古代（平安）～中世	社寺（隆明寺）又は城館伝承地
	立明寺古窯跡	生産遺跡	古代（平安）	須恵器窯（瓦陶兼窯）
319	立明寺古墳	古墳	古墳	古代墳墓の可能性も
	隆明寺跡	社寺跡	古代（平安）	中宮八院、複数ある伝承地の一
320	遊泉寺遺跡	散布地	縄文	
321	宮の奥墳墓群	その他の墓	（平安）	墳墓 4、3 基調査、2 号墓は鎌倉時代に経塚に利用された？
322	涌泉寺跡	社寺跡	古代（平安）	中宮八院、複数ある伝承地の一
323	常徳寺跡	社寺跡	中世（室町）	一向一揆・宇川常徳の居宅跡とも
324	鵜川堡跡	城館跡	不詳	一向一揆・宇川常徳の詰城伝承地
325	鵜川横穴	不詳	不詳	地下式坑？
326	仏大寺仏陀寺跡	社寺跡	中世	
327	仏大寺とうの池古墳	古墳	古墳	
328	仏生寺跡	社寺跡	中世	
329	仏生寺塚	経塚	中世	
330	ブッショウジヤマ古墳群	古墳	古墳	円墳 2、木芯粘土室
331	中海 B 遺跡	集落跡	古墳～中世	
	（伝）長寛寺跡	社寺跡	古代（平安）	中宮八院、地名伝承のみ
332	中海 C 遺跡	散布地	古代（平安）～中世	
333	中海遺跡・岩渕遺跡	散布地	縄文	
	岩渕上野遺跡	散布地	旧石器	

No	名　　称	種　　別	時　　代	備　　考
334	長寛寺中世墓跡	その他の墓	中世	
335	赤穂谷口遺跡	散布地	縄文	
336	松の木谷横穴群	不詳	不詳	存在自体が不明、5 基開口とされる
337	赤穂谷スギノキ谷横穴群	横穴墓	不詳	横穴 9、地下式坑 4
338	善興寺跡	社寺跡	古代（平安）	中宮八院
339	岩渕城跡	城館跡	中世	
340	仏ヶ原城跡	城館跡	中世	
341	仏御前屋敷跡・仏御前墓	その他の墓	古代（平安）	小松市指定史跡
342	麦口遺跡	散布地	縄文	
343	麦口中世墓跡	その他の墓	中世	
344	下麦口横穴群	横穴墓	不詳	横穴 3
345	岩倉城跡	城館跡	中世（室町）	
346	椎の木山遺跡	散布地	縄文	
347	昌隆寺跡	社寺跡	不詳	中宮八院
348	護国寺跡	社寺跡	古代（平安）	中宮八院
349	松谷廃寺	社寺跡	古代（奈良）	8 世紀前半に遡る古代山林寺院
	松谷寺跡	社寺跡	不詳	中宮八院
350	平野堡跡	城館跡	中世（室町）	一向一揆・平野某詰城伝承地
351	江指城跡（山神山砦跡）	城館跡	中世（室町）	
352	蓮花寺跡	社寺跡	不詳	中宮八院
353	波佐谷遺跡	散布地	中世（室町）	
354	波佐谷城跡	城館跡	中世（室町）	一向一揆・宇津呂丹波守詰城伝承地
	（伝）波佐谷松岡寺跡	社寺跡	中世（室町）	
355	波佐谷横穴群	横穴墓	不詳	横穴 13、地下式坑 5
356	六橋遺跡	集落跡	縄文	
357	麻畠尾谷遺跡	散布地	縄文	
358	松岡寺跡	社寺跡	中世（室町）	
359	火灯山横穴群	横穴墓	不詳	横穴 3
360	こたい谷横穴	横穴墓	不詳	横穴 1
361	穴山横穴	横穴墓	不詳	横穴 1
362	池城経塚	経塚	中世（室町）	
363	曽山横穴	横穴墓	不詳	横穴 1
364	布橋遺跡	散布地	縄文	
365	寺ノ腰遺跡	散布地	縄文	ほかに寺院跡の伝承あり
366	観音下城跡	城館跡	不詳	
367	和気後山谷奥遺跡	生産遺跡	古代（平安）	土師器焼成坑、能美古窯跡南群　後山谷支群
368	和気後山谷 2 号窯跡	生産遺跡	古代（奈良末～平安）	須恵器窯、能美古窯跡南群　後山谷支群
369	和気下和気古窯跡	生産遺跡	古代（平安）	須恵器窯、能美古窯跡南群
370	和気近世窯跡	生産遺跡	近世	
371	和気矢口 A 遺跡	散布地	縄文	
372	和気公文屋遺跡	城館跡	不詳	
373	和気中和気古窯跡	生産遺跡	不詳	須恵器窯、能美古窯跡南群　後山谷支群
374	虚空蔵城跡	城館跡	中世	
375	虚空蔵山横穴群	横穴墓	不詳	
376	寺畠古窯跡	生産遺跡	不詳	須恵器窯、能美古窯跡南群
377	寺畠薬師坂古墳	古墳	古墳	
378	鍋谷社跡	社寺跡	不詳	
379	鍋谷中世墓群	その他の墓	中世	
380	鍋谷横穴	横穴墓	不詳	
381	鍋谷堡跡	城館跡	不詳	

参考文献

イ　石川県教育委員会 (1992) 石川県遺跡地図

石川県立埋蔵文化財センター (1986) 漆町遺跡 I , 石川県小松市

石川県立埋蔵文化財センター (1988) 漆町遺跡 II , 石川県小松市

石川県立埋蔵文化財センター (1988) 辰口西部遺跡群 I , 石川県能美市

石川県立埋蔵文化財センター (1988) 白江梯川遺跡 I , 石川県小松市

石川県立埋蔵文化財センター (1989) 漆町遺跡 III , 石川県小松市

石川県立埋蔵文化財センター (1989) 漆町遺跡 IV , 石川県小松市

石川県立埋蔵文化財センター (1989) 白江梯川遺跡 II , 石川県小松市

石川県立埋蔵文化財センター (1989) 蓮代寺地区遺跡 I , 石川県小松市

石川県立埋蔵文化財センター (1990) 小松市高堂遺跡

石川県立埋蔵文化財センター (1993) 能美丘陵東遺跡群 I , 石川県能美市

石川県立埋蔵文化財センター (1995) 石川県小松市荒木田遺跡

石川県立埋蔵文化財センター (1997) 能美丘陵東遺跡群 II , 石川県能美市

石川県立埋蔵文化財センター (1998) 能美丘陵東遺跡群 III , 石川県能美市

(財) 石川県埋蔵文化財センター (1999) 能美丘陵東遺跡群 IV , 石川県能美市

(財) 石川県埋蔵文化財センター (1999) 能美丘陵東遺跡群 V , 石川県能美市

(財) 石川県埋蔵文化財センター (1999) 辰口町上徳山谷山西谷窯跡 , 石川県能美市
(財) 石川県埋蔵文化財センター (2002) 加賀市柴山貝塚・柴山出村遺跡
(財) 石川県埋蔵文化財センター (2006) 小松市矢田野遺跡群
(社) 石川県埋蔵文化財保存協会 (1993) 小松市林遺跡
(社) 石川県埋蔵文化財保存協会 (1998) 石川県小松市八幡遺跡 I
石川考古学研究会 (1988) 石川県城館跡分布調査報告
ウ 上野 與一 (1965) 考古篇 , 小松市史 4. 風土・民俗篇 , 小松市教育委員会 , 石川県
カ 軽海用水誌編纂委員会 (1996) 軽海用水誌 , 小松東部土地改良区 , p75-77. p201-221., 石川県
コ 小松市教育委員会 (1988) 念仏林遺跡 , 石川県
小松市教育委員会 (1990) 湯上谷古窯跡 , 石川県
小松市教育委員会 (1990) 二ツ梨東山古窯跡・矢田野向山古窯跡 , 石川県
小松市教育委員会 (1992) 矢田野エジリ古墳 , 石川県
小松市教育委員会 (2000) 矢田借屋古墳群 , 石川県
小松市教育委員会 (2003) 八日市地方遺跡 I , 石川県
小松市教育委員会 (2004) 佐々木遺跡 , 石川県
小松市教育委員会 (2004) 八里向山遺跡群 , 石川県
小松市教育委員会 (2005) 小松市内遺跡発掘調査報告書 I . 二ツ梨豆岡向山窯跡 , 石川県
小松市教育委員会 (2006) 小松市内遺跡発掘調査報告書 II . 矢田借屋古墳群 , 石川県
小松市教育委員会 (2006) 千代オオキダ遺跡 , 石川県
小松市教育委員会 (2006) 小野遺跡 , 石川県
小松市教育委員会 (2006) 額見町遺跡 I , 石川県
小松市教育委員会 (2007) 小松市内遺跡発掘調査報告書 III . 薬師遺跡 , 石川県
小松市教育委員会 (2007) 額見町遺跡 II , 石川県
小松市教育委員会 (2008) 額見町遺跡 III , 石川県
小松市教育委員会 (2009) 額見町遺跡 IV , 石川県
小松市教育委員会 (2010) 額見町遺跡 V , 石川県
小松市教育委員会 (2011) 小松市内遺跡発掘調査報告書 VII . 矢崎宮の下遺跡 . 薬師遺跡 V 次 , 石川県
小松市教育委員会 (2014) 大川遺跡 , 石川県
小松市史編纂委員会 (2001) 新修小松市史 3. 九谷焼と小松瓦 , 小松市 , 石川県
小松市史編纂委員会 (2002) 新修小松市史 4. 国府と荘園 , 小松市 , 石川県
タ 辰口町教育委員会 (1982) 辰口町下開発茶臼山古墳群 , 石川県能美市
辰口町教育委員会 (1985) 辰口町湯屋古窯跡 , 石川県能美市
辰口町教育委員会 (2001) 辰口町湯屋古窯跡 III , 石川県能美市
辰口町教育委員会 (2004) 下開発茶臼山古墳群 II , 石川県能美市
辰口町教育委員会 (2005) 和気後山谷窯跡群 , 石川県能美市
テ 寺井町教育委員会 (1997) 加賀能美古墳群 , 石川県能美市
ヘ 日置 謙 (1923) 石川県能美郡誌 , 能美郡役所 , p366-375. p642. p823. p1268-1269. p1342-1343. , 石川県
日置 謙 (1925) 石川県江沼郡誌 , 江沼郡役所 , p679. , 石川県
ホ 北陸中世土器研究会 編 (1997) 中・近世の北陸 , 桂書房 , p193-208.

第Ⅱ章　調査の概要

第 1 節　調査に至る経緯

石川県土木部の地方道改築事業 南加賀道路（粟津ルート）に係る矢田新遺跡の発掘調査は、(公財)石川県埋蔵文化財センター（以下「財埋」）によって、平成 26 ～ 27 年度の 2 カ年に渡って発掘調査が実施された。この調査の完了をもって、南加賀道路（粟津ルート）の未着工部分の工事が着手されたが、沿線の工場にアクセスする道路の新設が必要だった。平成 27 年度の調査は、本線の新設道路の一部に当たる区域の調査であった。

この時点で、石川県では北陸新幹線に係る大規模な発掘調査が控えていた。民間の支援業務も積極的に活用してもなお保有するリソースの多くを必要とするものだった。これに伴い、県内で発掘調査対応となっている県事業を管内の各市町に委託する方針が決定された。矢田新遺跡発掘調査もそのうちの一つだった。

北陸新幹線に関しては、これに伴う住宅移転に係る発掘調査は小松市が対応することになり、小松市としてこれへの対応も必要であり、 県教委から打診のあった矢田新遺跡の発掘調査面積は 1,410 ㎡であり、この規模は現有の調査体制では対応が厳しく、受託のする場合のシミュレーションを、直営で発掘調査する場合と民間の支援業務を活用する場合の両方で行なったところ、どちらの場合でも予算規模に大きな違いが出ない設計が可能と分かった。

最終的に、県文化財課と南加賀土木事務所との現地打ち合わせを経て、民間の支援業務を活用する前提で当該調査を受託することとなった。

図 4　矢田新遺跡　調査地位置図 (S = 1 : 50,000)

石川県南加賀土木総合事務所長からの依頼は平成 28 年 4 月 1 日付け、小松市からは 4 月 28 日付けで受託する旨の回答をした。

5 月に入ってからは、市内で北陸新幹線建設に伴う住宅移転に係る調査 2 件に対応するために、始まって早々ではあるが、6 月までほぼ 2 ヶ月間、事務を中断せざるを得なくなった。

発掘調査費用が凡そ煮詰まって、石川県知事と小松市長の間で矢田新遺跡発掘調査に関する委託契約を締結したのは 6 月 27 日付け、さっそく、これを民間業者に委託するために入札の準備に取りかかり、入札日は 8 月 1 日、翌日の改札の結果、契約先は株式会社太陽測地社に落札決定した。

発掘調査に着手したのは 8 月 29 日だった。当初目論んでいた着手時期よりちょうど 1 ヶ月遅れでの着手となった。

第 2 節　調査の概要

南加賀道路（粟津ルート）に係る発掘調査の最後の区域でもあり、周辺に土置場がない上に、周辺の畑作は継続されており、農道を通行止めにできないという制約があったことから、調査区は畑部分（Ⅰ・Ⅱ区）と農道部分（Ⅲ区）とし、畑部分の調査を完了したところでここに仮設道路を設置（工事は南加賀土木総合事務所に依頼）して迂回路とすることにより対応した。Ⅰ・Ⅱ区の区分は、土置場の都合で 2 回に分けただけであり、それ以上の意味はない。

グリッドは 10m スパンで設定し、原点は、図 5 の B1 を原点とし、農道の境界杭の（なるべく遠い）任意の一つを後視点として選点して座標軸を設定した。後視点は座標のみ記録し、グリッド設定後に任意のタイミングで取り払われた。

遺構番号については、種別に拘らずすべて通し番号でⅠ区は 101 ～、Ⅱは 201 ～、Ⅲ区は 301 ～と予め設定したが、結果的には遺構が少なく、すべて 101 ～からの通し番号で、現地調査終了後にⅢ区のみ 301 ～番号を振り直した。

発掘調査では、まず 20cm ほどの包含層直下に地山面があるとの事前情報を受けていたが、実際はもっと浅く、最小で 5cm、という箇所もあった。

遺構と遺物も、1,410㎡という面積を考慮すれば少なく、前年の平成 27 年度の財埋調査区に接続する A2 ～ A3 区に極端に集中する状況だった。言い換えれば、この区域以外では極めて分布が希薄だったといえる。

だが、全く何もなかったことはなく、時代不明ながら、巨大な土坑が 2 基発見され、うち 1 基があった場所は、調査着手直前まで、畑の土が肥料ごと雨水で流出することに耕作者が悩まされ続けていたそうだ。少なくともその原因が突き止められた。

発掘調査は、年内での完了・引き渡しが可能な日程調整をしつつ、予想より遺構と遺物が少なかったことも相俟って、12 月 14 日にすべての作業を完了することができた。

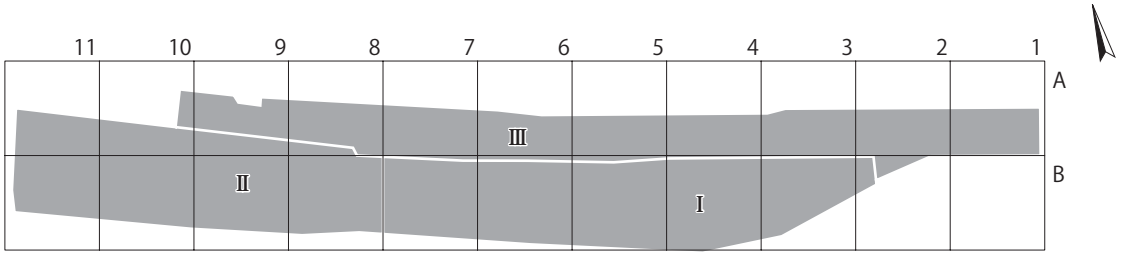


図 5　矢田新遺跡　グリッド配点図 (S = 1 : 800)

第 3 節　出土品整理

出土品整理は、契約では平成 28 年度中に一部着手する予定だったが、発掘調査完了時点で、翌年 1 年あれば十分完了可能と判断し、出土品整理を平成 29 年度に着手することとした。

作業員 1 名を新規に雇用することになったため、実質的に作業に入ったのは 5 月からで、出土品整理のすべて（洗浄、記名、分類、接合、実測、拓本、トレース）を手解きしながら進めなければならない上に、2 月の豪雪の影響で約 1 週間作業が止まるなど、経過日数と残り日数を気にしながらの舵取りとなった。

第Ⅲ章　遺構と遺物

第 1 節　遺構（図版 1 ～ 19）

⑴　SX101（図版 15）

既存の灌漑用パイプラインが横切っていることもあり、プランがつかみ切れない。セクションによる限り、掘削に伴う残土が底部に溜まっている。埋め戻された痕跡もなく、出土遺物も疎らに包含されていた。

⑵　SX102（図版 16）

これも不定形な浅い掘り込み。埋め戻された痕跡がなく、表層の土壌が流れ込んで埋まっている。出土遺物は疎らである。

⑶　SX103（図版 17）

楕円形プランで幅が短軸で 10m 以上、深さ 3m 以上もある巨大な土坑である。地山埴土層下の砂層まで到達している。掘方には重機棟を使った痕跡はなく全て手掘り掘削と考えられ、埋土は、少なくとも 3 層以下は手作業による埋め戻しと考えられる。1 ～ 2 層は、調査地が現在の地形になった時の整地層であろう。出土遺物はこの埋め戻し層に包含されていたものだが、掘削や埋め戻した年代と直接関わるものとは言えない。

⑷　SX130（図版 18）

性格は SX103 と同じ土坑と考えられる。こちらはプランも掘方も「形」として捉えられるものではなく、掘削は任意の深さで止め、上端と下端線は便宜的に引いたに過ぎないものだが、幅が短軸で約 10m、深さ約 2m である。

この土坑はほとんど埋め戻されておらず、掘削場所は緩やかな谷地形の底にあたる。最終的に整地層で埋まるのだが、これが不十分であったために、大きな凹みが調査時点でも残っており、これが農道につながっていたことが、畑の土の流出に大きな影響を及ぼしていた。

⑸　SX301・303（図版 19）

プランは略方形、明瞭な掘方を持つ土坑である。記号に関しては、今回調査に限っては、調査期間の終盤に差し掛かるまで有意な遺構が発見されなかったことから全て「SX」で統一したが、この 2 基と 302 は「SK」と読み替えてよい。

いずれも埋め戻された痕跡がなく、表層の土壌が流れ込んで埋まっている。出土遺物は疎らである。

第 2 節　遺物（図版 20 ～ 24）

⑴　古代の土器（1 ～ 35）

1 ～ 28 は須恵器である。21 ～ 23 が最も古く 7 世紀前半頃、ほか、24 ～ 28 は 8 世紀後半頃か。

1 ～ 16 は甕である。他にも横瓶等の可能性があるが、口縁部等の特定部位の破片はなく、便宜的に全て「甕」とした。

17 ～ 20 は壷または瓶である。

21 は須恵器の無蓋高坏の坏部片と思われる。

22 ～ 23 は坏 H 蓋である。身の部分は今回の出土品にはなかった。

24 は坏 B の蓋、25 ～ 26 は坏 A、27 は坏 B、28 は盤 B である。

29 ～ 35 は土師器である。資料としてまとまりはなく、最も古いと思われるのが 29 で 8 世紀前半、最も新しいと思われるのが 32 ～ 33 の 9 ～ 10 世紀代である。

29 ～ 30 は甕（釜）の口縁部、31 は頸部、32 ～ 33 は胴部から底部である。

34 ～ 35 は椀（または皿）の底部である。

⑵　中世～近世の土器（36 ～ 59）

36 ～ 43 は無釉の焼き締め陶器（炻器）であり、44・45 は周囲を加工した陶片である。

46 ～ 48 は瓦質土器の火鉢または小型鉢（香炉）である。

49 ～ 53 はカワラケである。52 は口縁部に油煤の付着が認められる。

54 ～ 59 は近世以降の陶磁器であり、少なくとも 55 ～ 58 は 17 ～ 18 世紀代の肥前系と思われる。

⑶　その他の遺物（60 ～ 71）

60 は銅製の簪と思われる。

61 ～ 62 は、行火である。凝灰角礫岩は軽石質で、見かけの大きさに比してかなり軽い。

63 ～ 65 は砥石である。使用による変形が著しい 63 は、波打つような磨り減り方から鉄製の刃物に対して使用されたことが明らかである。

66 ～ 71 は、先史時代の石器であり、該当する時期の土器が調査で得られなかったことから時期については言及できないものの、70 の磨製石斧は基部が細い撥形を呈しており、このタイプは縄文時代後期以降といえる。円礫の一端を割った (ように見える)68 の下辺の剥離は使用痕と思われ、同様の素材の 69 は両極打撃が認められる。

これら先史時代の石器については、平成 27 年度の財埋調査で縄文時代晩期から弥生時代時代初めにかけての遺構が検出されており、これらに関連する遺物の可能性も考慮しておくにとどめる。

表 2　矢田新遺跡　遺物属性表

図版	番号	実測	出土位置	分類	器形	寸法 / 残率	表層色調	胎土色調	備考
20	1	な 14	SX102	須恵器	甕		10YR 8/3 - 2.5YR 6/6	7.5YR 7/3	
20	2	な 01	SX103	須恵器	甕		N 6/0 - 5/0	N 7/0 - 5/0	
20	3	な 03	SX103	須恵器	甕		N 6/0 - 4/0	2.5Y 7/3 - 6/3	
20	4	な 12	SX103 トレンチ	須恵器	甕		N 6/0	10YR 7/3	
20	5	に 04	SX103	須恵器	甕		N 8/0 - 7/0	10YR 7/2	
20	6	に 06	P104	須恵器	甕		N 7/0 - 6/0	N 7/0	
20	7	に 02	SX130	須恵器	甕		N 7/0 - 5/0	N 7/0	
20	8	な 07	SX130	須恵器	甕		N 6/0	10YR 7/3	
20	9	な 08	SX130	須恵器	甕		N 6/0 - N 5/0	N 7/0	
20	10	な 06	SX130	須恵器	甕		N 5/0 - 5GY 4/1	5YR 6/2 - 5/1	
20	11	な 05	B5gr	須恵器	甕		N 7/0 - 6/0	2.5Y 8/2 - 7/1	
20	12	な 02	A8gr	須恵器	甕		N 6/0 - 5/0	N 6/0	
20	13	な 04	B8gr	須恵器	甕		N 6/0	N 6/0 - 5/0	
20	14	に 09	B8gr	須恵器	甕		N 5/0 - 2/0	N 5/0	自然釉

図版	番号	実測	出土位置	分類	器形	寸法 / 残率	表層色調	胎土色調	備考
20	15	に 11	B8gr	須恵器	甕		2.5Y 7/2 - N 5/0	N 6/0	
20	16	に 01	B8gr	須恵器	甕		N 7/0 - 6/0	N 6/0	
		な 09	SX130	須恵器	甕		N 6/0 - N 5/0	7.5YR 6/2 - 6/1	
		な 10	SX102	須恵器	甕		N 6/0 - N 5/0	10YR 7/3	
		な 11	SX103 トレンチ	須恵器	甕		N 7/0 - 5/0	N 7/0	
		な 13	Ⅰ区	珠洲	大甕		N 6/0 - 5/0	10YR 6/2 - 6/1	
		な 25	SX103	須恵器	坏 B 蓋	口 : 18cm/0.139	N 5/0	N 5/0	焼成時の歪み
		に 03	A3gr	須恵器	甕		N 7/0 - 4/0	2.5Y 7/3	
		に 05	B8gr	須恵器	甕		N 6/0 - 5/0	N 5/0	
		に 07	P104	須恵器	甕		N 7/0 - 6/0	N 7/0	
		に 08	SX101	須恵器	甕		N 6/0 - 5/0	N 5/0	自然釉
21	17	な 42	SX130	須恵器	壺	頸 : 14cm/0.083	10YR 8/1 - 7/1	10YR 7/3	
21	18	な 27	A3gr	須恵器	瓶		N 7/0	N 7/0	
21	19	な 31	B8gr	須恵器	瓶	底 : 10cm/0.306	N 6/0 - 4/0	N 6/0	
21	20	な 18	A3gr	須恵器	壺か瓶	底 : 14cm/0.167	2.5GY 6/1 - 5/1	2.5GY 6/1	
21	21	な 26	A3gr	須恵器	高坏		N 5/0	N 5/0	
21	22	な 30	SX103	須恵器	坏 H 蓋	口 : 14cm/0.056	7.5YR 6/2 - N 5/0	N 5/0	7c 前半
21	23	な 35	Ⅰ区	須恵器	坏 H 蓋		N 5/0 - 4/0	N 5/0	7c 前半
21	24	な 24	Ⅱ区	須恵器	坏 B 蓋	口 : 16cm/0.083	N 6/0	N 6/0	7c 前半
21	25	な 36	B8gr	須恵器	盤 B	底 : 20cm/0.111	N 7/0 - 5/0	N 7/0	硯に転用
21	26	な 32	SX101	須恵器	坏 A	底 : 13cm/0.083	N 7/0 - 5/0	N 7/0	
21	27	な 33	SX103	須恵器	坏 A	底 : 12cm/0.111	7.5Y 7/1	10YR 6/3	
21	28	な 34	A3gr	須恵器	坏 B	台 : 12cm/0.194	N 7/0 - 5/0	N 7/0	
21	29	な 54	B5gr	土師器	釜	口 : 22cm/0.042	5YR 7/6 - 7.5YR 7/4	7.5YR 7/4	8c 前半？
21	30	な 52	B4gr	土師器	釜		7.5YR 8/3 - 7/6	7.5YR 8/3	9c 前半
21	31	な 53	SX103	土師器	釜	頸 : 20cm/0.139	5YR - 7.5YR 7/6	7.5YR 7/6	
21	32 33	に 16	B10gr	土師器	釜	底 : 9cm/0.889	10YR 8/3 - 7/4	10YR 8/4	9 ～ 10c
21	34	な 15	SX102	土師器	椀	底 : 6cm/0.722	10YR 7/6 - 7.5YR 6/3	7.5YR 7/4 - 6/4	
21	35	な 16	SX103 トレンチ	土師器	椀	底 : 8cm/0.250	7.5YR 7/4	10YR 8/4	
		な 17	SX103	土師器	釜か鍋		5YR 7/6 - 6/6	5YR 7/6	
		な 20	SX102	土師器	釜か鍋		7.5YR 7/4 - 6/3	7.5YR 7/3	
		な 51	SX103	土師器？	鍋？	口 : 22cm/0.083	7.5YR 8/2 - 7/3	7.5YR 7/3 - 10YR 5/1	
22	36	な 29	SX102	(炻器)	大甕	口 : 40cm/0.083	N 6/0 - 7.5YR 2/1	N 6/0	
22	37	な 40	SX130	越前	大甕		10YR 6/1 - 3/2	10YR 6/2	14c 前半？
22	38	な 41	B8gr	越前	壺		N 6/0	N 6/0	13c?
22	39	な 43	B8gr	越前	壺		N 5/0	N 5/0	13c?
22	40	な 28	SX301	越前	擂鉢	口 : 32cm/0.083	7.5YR 4/2	N 5/0	
22	41	に 14	SX130	越前	擂鉢	底 : 15cm/0.083	7.5YR 6/3 - 6/2	5Y 6/2	
22	42	に 13	SX103	珠洲	擂鉢	底 : 10cm/0.111	5Y 6/1 - 5/1	2.5Y 6/1	
22	43	に 12	A3gr	珠洲	擂鉢		7.5Y 5/1	7.5Y 5/1	15c 後半
22	44	に 15	A3gr	越前	擂鉢	長 : 3.9cm, 幅 : 3.3cm, 厚 : 1.6cm , 重 : 25.2g	2.5YR 4/3	2.5YR 6/4	破片加工陶片
22	45	に 10	SX101	珠洲	甕	長 : 2.3cm, 幅 : 2.0cm, 厚 : 1.3cm, 重 : 6.1g	N 6/0 - 5/0	N 5/0	破片加工陶片
22	46	な 37	A2gr	瓦質土器	火鉢		2.5Y 3/1 - 2/1	10YR 8/3 - 7/3	
22	47	な 38	B8gr	瓦質土器	火鉢		2.5Y 3/1 - 2/1	10YR 8/3 - 7/3	
22	48	な 39	SX130	瓦質土器	小型鉢		2.5Y 3/1	10YR 8/3 - 6/1	
22	49	な 55	SX130	かわらけ	皿	口 : 7cm/0.500, 高 : 1.5cm	10YR 8/3	10YR 8/3	
22	50	な 58	B5gr	かわらけ	皿	口 : 9cm/0.139, 高 : (2.1)cm	10YR 8/4	10YR 8/4	
22	51	な 56	SX101	かわらけ	皿	口 : 9cm/0.056, 高 : (2.1)cm	10YR 8/4 - 8/2	10YR 7/3 - 7/1	
22	52	な 57	SX130	かわらけ	皿	口 : 9cm/0.194, 高 : (1.5)cm	10YR 8/3 - 4/1	10YR 8/3 - 4/1	油煤あり
22	53	な 59	SX303	かわらけ	皿	口 : 10cm/0.111, 高 : 2.0cm	7.5YR 8/4 - 8/2	7.5YR 8/2	な 60 と同一個体
22		な 60	SX303	かわらけ	皿	口 : 10cm/0.028.111, 高 : 2.0cm	7.5YR 8/4 - 8/2	7.5YR 8/2	な 59 と同一個体
22	54	な 47	B8gr	(陶器)	椀	口 : 12cm/0.111	5Y 5/3 (灰釉)	2.5Y 7/2	近世
22	55	な 45	SX130	肥前	椀	台 : 4cm/0.639	7.5Y 6/2 (灰釉)	2.5Y 6/1	近世
22	56	な 48	B8gr	肥前	椀	口 : 12cm/0.222	10GY 7/1 (藁灰釉)	2.5Y 7/2	近世
22	57	な 46	B8gr	肥前	椀	口 : 12cm/0.083	無色 (長石釉)	7.5Y 8/1	近世
22	58	な 49	SX130	肥前	椀	台 : 6cm/0.806	無色 (長石釉)	N 8/0	近世
22	59	な 50	B8gr	(陶器)	椀	口 : 9cm/0.139	5Y 7/2 - 5/2 (藁灰釉)	10YR 7/2 - 7/1	近世
22	60	せ 12	P152	銅製品	簪	長 :(11.1)cm, 幅 : 1.1cm, 厚 : 0.3cm, 重 : 11.93g			
		な 19	B8gr	越前	大甕		2.5Y 6/1 - 2.5YR 5/3	N 6/0	
		な 21	SX130	越前	大甕		2.5Y 8/1 - 7.5Y 5/3	7.5Y8/2	
		な 22	SX130	越前	大甕		5YR 5/3	7.5YR 8/4 - 2.5YR 6/1	
		な 23	B8gr	越前	大甕		10YR 7/3	N 5/0	
		な 44	B7gr	(陶器)	大皿		10YR 2/1 - 5Y 4/2 (黒釉)	10YR 8/6	近世在地？
23	61	せ 10	B8gr	石製品	行火	長 :(14.4)cm, 幅 :(9.0)cm, 厚 : (4.8)cm, 重 : 405.1g, 凝灰角礫岩			
23	62	せ 11	SX103	石製品	行火	長 :(8.6)cm, 幅 :(7.1)cm, 厚 :(3.0)cm, 重 : 116.8g, 軽石質凝灰角礫岩			
23	63	せ 06	SX101	石製品	砥石	長 :15.8cm , 幅 : 6.3cm, 厚 : 6.9cm, 重 : 1,017.4g, ホルンフェルス			
23	64	せ 04	SX101	石製品	砥石	長 :(4.7)cm, 幅 : 4.4cm, 厚 : 3.0cm, 重 : 89.4g, 凝灰岩			
23	65	せ 05	P321	石製品	砥石	長 :(6.1)cm, 幅 :(4.5)cm, 厚 :(5.7)cm , 重 : 169.7g, ホルンフェルス			
24	66	せ 01	B8gr	石器	磨石類	長 : 9.2cm, 幅 : 8.1cm, 厚 : 4.4cm , 重 : 447.9g			
24	67	せ 03	B8gr	石器	磨石類	長 :(6.6)cm, 幅 :(6.5)cm, 厚 : 6.4cm, 重 : 376.5g, 珪岩			
24	68	せ 09	SX102	石器	礫端片	長 : 11.1cm, 幅 : 14.9cm, 厚 : 4.6cm, 重 : 706.2g, 流紋岩			
24	69	せ 02	SX130	石器	両極剥離	長 : 12.9cm, 幅 : 6.6cm, 厚 : 2.5cm, 重 : 246.6cm, 変朽安山岩			
24	70	せ 08	SX130	石器	磨製石斧	長 : 13.0cm, 幅 : 6.2cm, 厚 : 3.4cm, 重 : 345.2g, ホルンフェルス			
24	71	せ 07	SX130	石器	剥片	長 : 5.0cm, 幅 : 3.2cm, 厚 : 1.0cm, 重 : 16.1g, 黒色安山岩			

第Ⅳ章　まとめ

本報告に係る調査区は、（公財）石川県埋蔵文化財センター平成 27 年度 B 調査区の南に接続する位置にある。結果から言えば、財埋調査区からの遺構の分布はここに接続する市調査区の A2 ～ A3 グリッドのみで、ほかは関連しない別遺構および削平等による遺構の消滅した範囲と考えられる。

目立つ遺構として、SX103・130 を挙げることができ、今回報告する遺物の多くはこれらを埋め戻した層から出土したが、これらは必ずしも掘削年代を推定する根拠にはならない。

SX103・130 に共通するのは、幅 10m を越える範囲を地山の粘土層下の砂層まで数 m の深さを手掘りで掘削していることである。土木機械を使用したような痕跡は掘方に認められない。

これらの埋め戻し作業が行なわれた時期は 2 回ある。

1 回目は SX103 の埋め戻しであり、表土の黒ボク質土と地山の粘土層が幾重も層を成して擂鉢状の凹地になる程度までは埋まっている。掘削時と同じく手作業による埋め戻しである。本報告の古代～中世の遺物は主にこの層から出土した。SX130 は、この段階ではほぼ埋め戻されていないと考えられる。

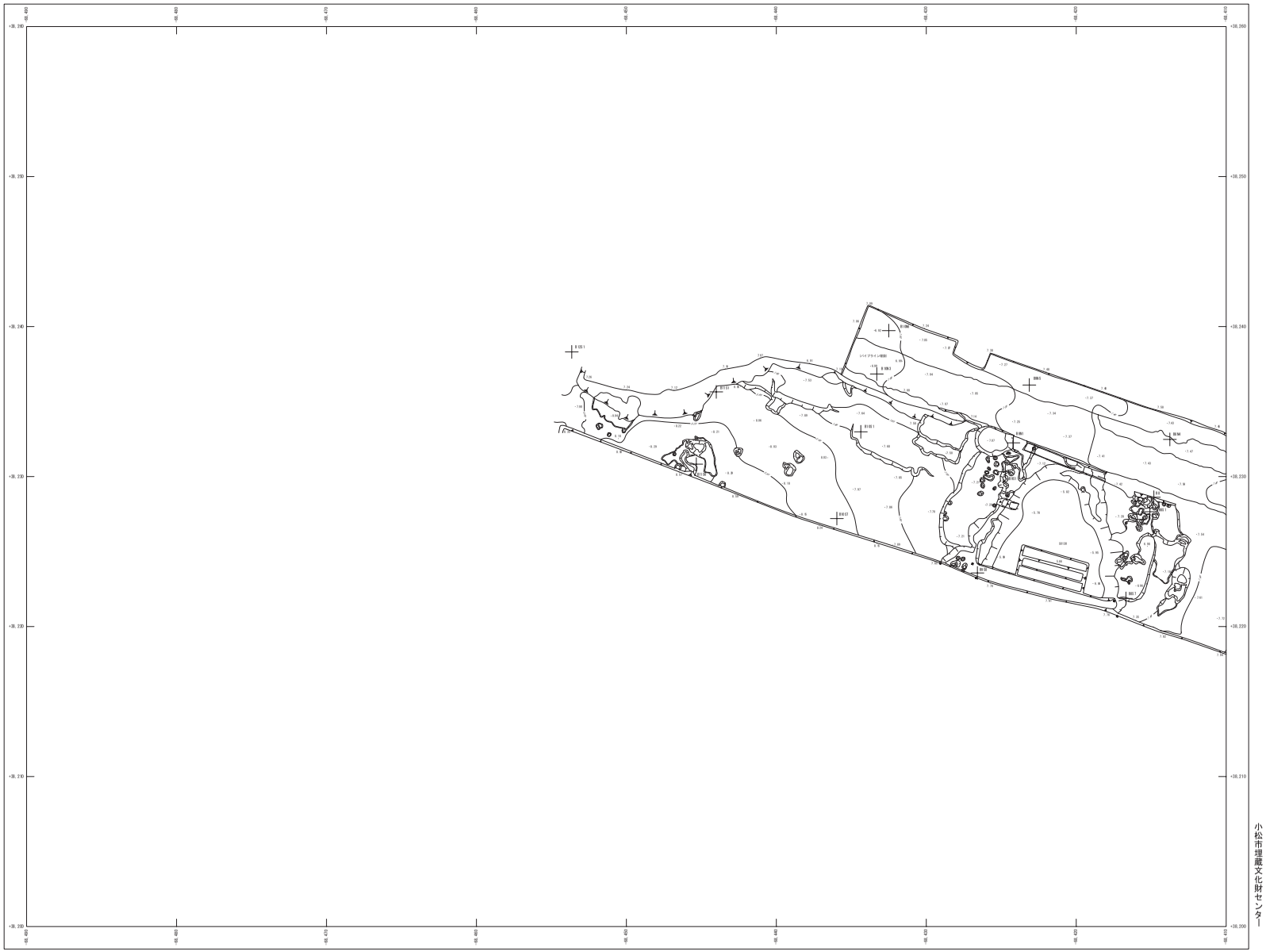
2 回目は現在まで続く畑地の状態までの埋め戻しであり、SX130 の擂鉢状の凹地と SX130 の殆どを埋め戻している。ただ SX130 の埋め戻しは不十分で、写真図版 2 の俯瞰から、皿状の大きな浅い凹みがよく分かる。この写真による限り、東西約 10m、南北約 30m に渡って掘削されたようだ。

掘削時期について、地元矢田新町に口承はなく、同町は近世の大聖寺藩領の時代から存続する集落であることから、集落（矢田新村）成立の時点で、少なくとも 1 回目の埋め戻しは完了していたと推定される。

55 ～ 58 の陶磁器はこの矢田新村の時代のものであり、SX130 を埋め戻した層の出土である。したがって、2 回目の埋め戻しは、この時代に村人によって行なわれたと考えられる。

参考文献

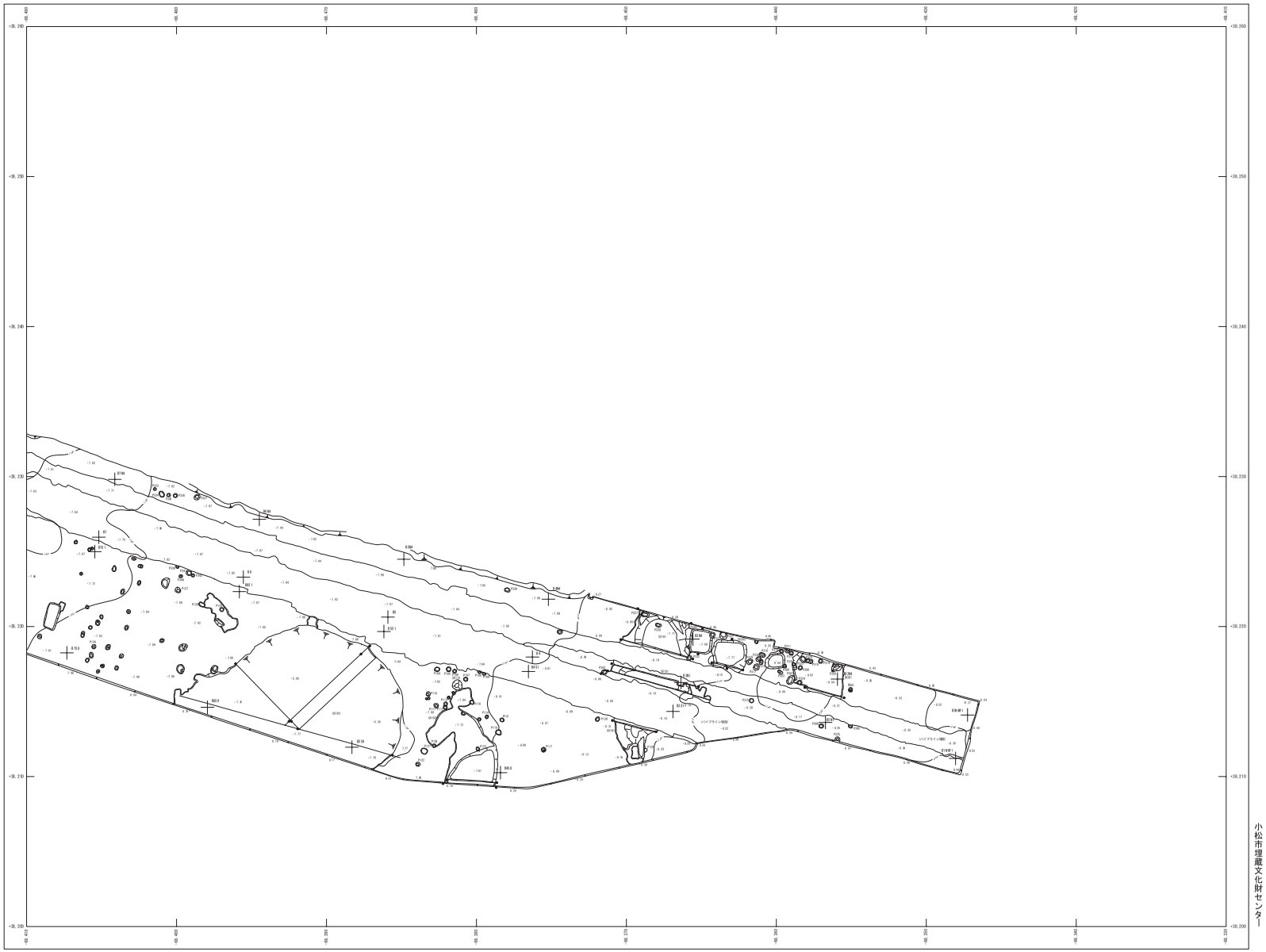
小松市教育委員会 2011 年 『小松市内遺跡発掘調査報告書 Ⅶ』
小松市教育委員会 2018 年 『小松市内遺跡発掘調査報告書 Ⅻ』
（公財）石川県埋蔵文化財センター 2015『石川県埋蔵文化財情報』第 34 号
（公財）石川県埋蔵文化財センター 2016『石川県埋蔵文化財情報』第 35 号



図版　1

平成28年度　矢田新遺跡　平面図　1

図版2　平成28年度　矢田遺跡　平面図2

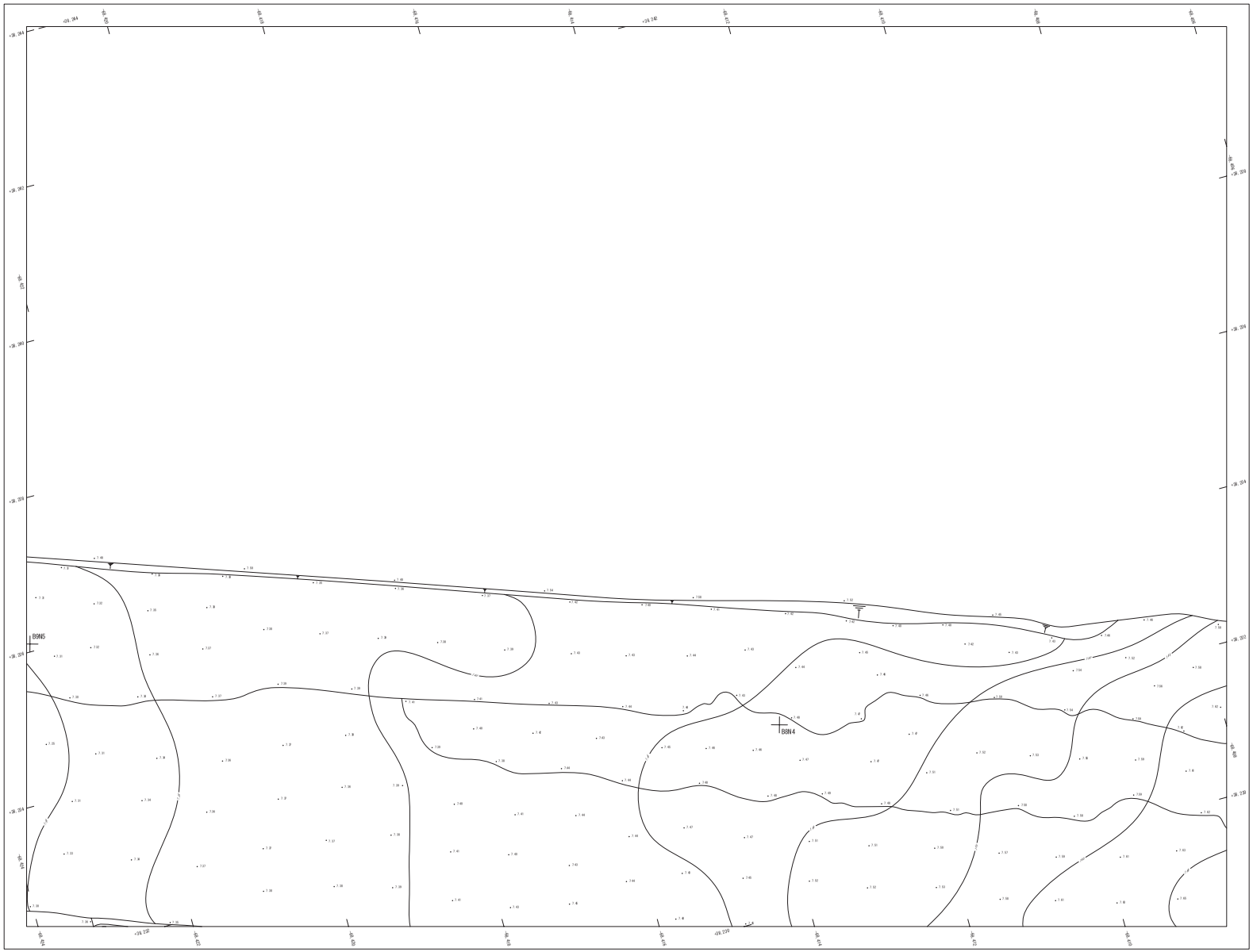


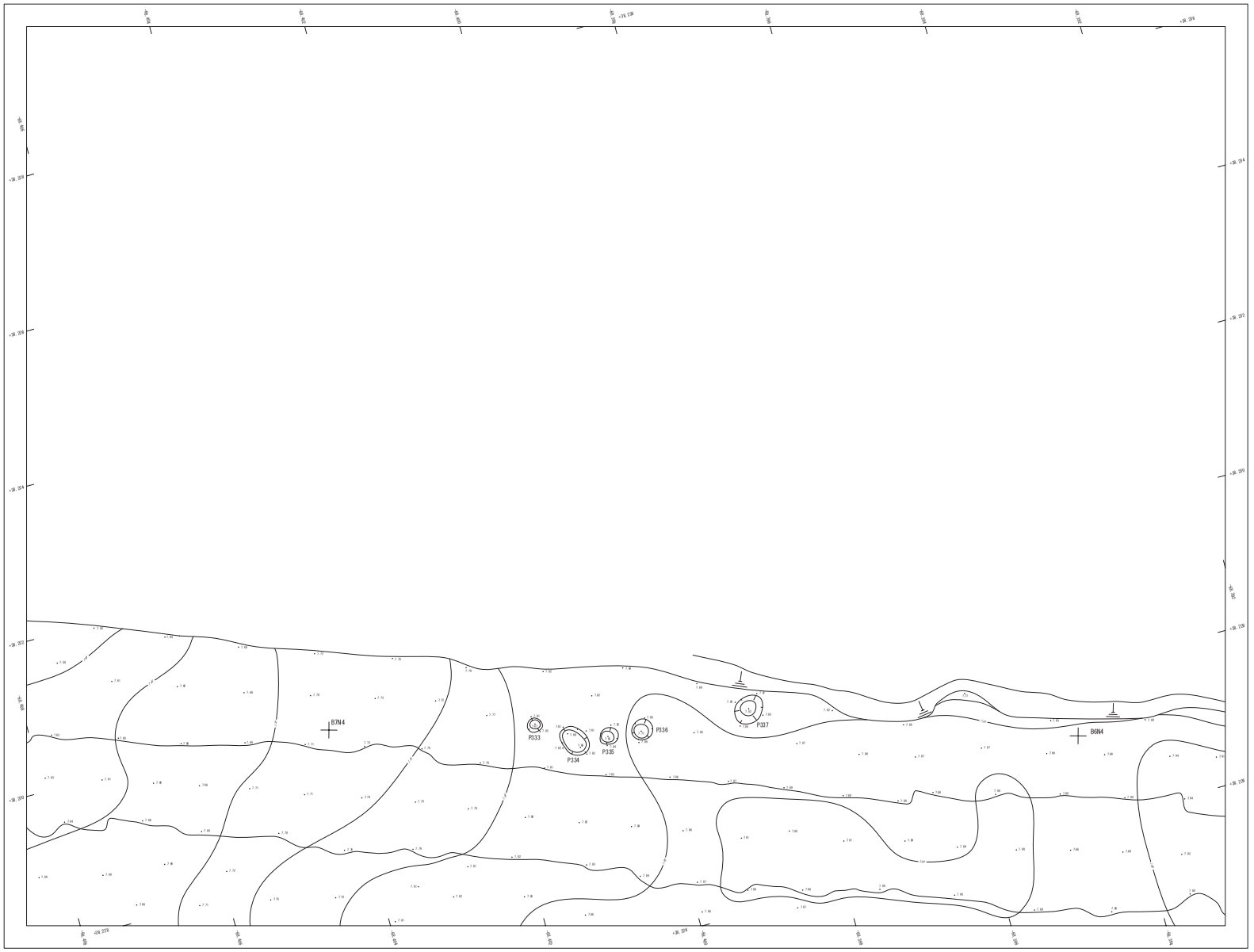
図版 3

平成28年度 矢田新遺跡 平面図 3

図版4

平成28年度 矢田遺跡 平面図4





図版5

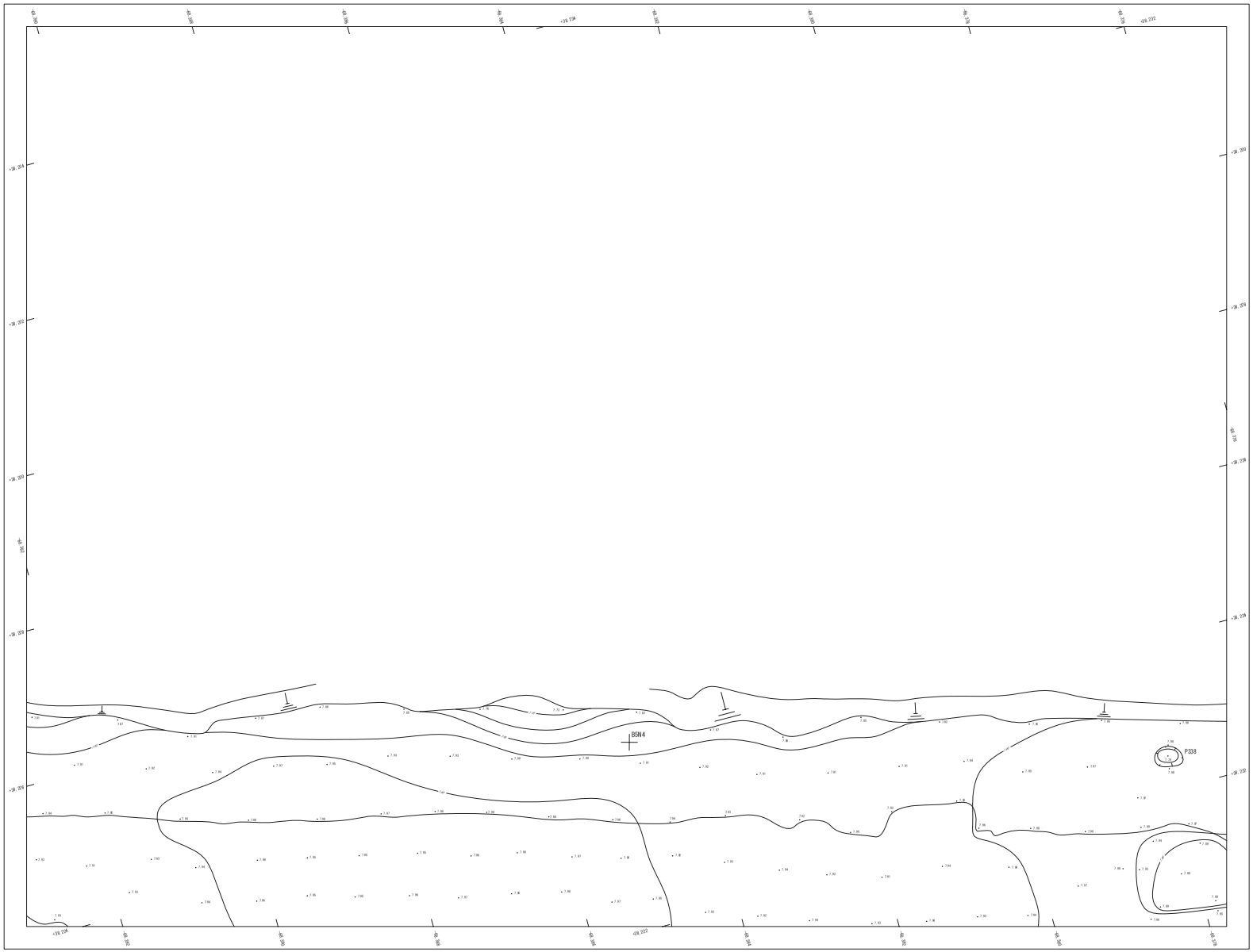
平成28年度

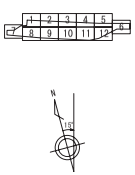
矢田新遺跡

平面図5

図版 6

平成28年度 矢田遺跡 平面図 6





株式会社太陽測地社 調製

小松市埋蔵文化財センター

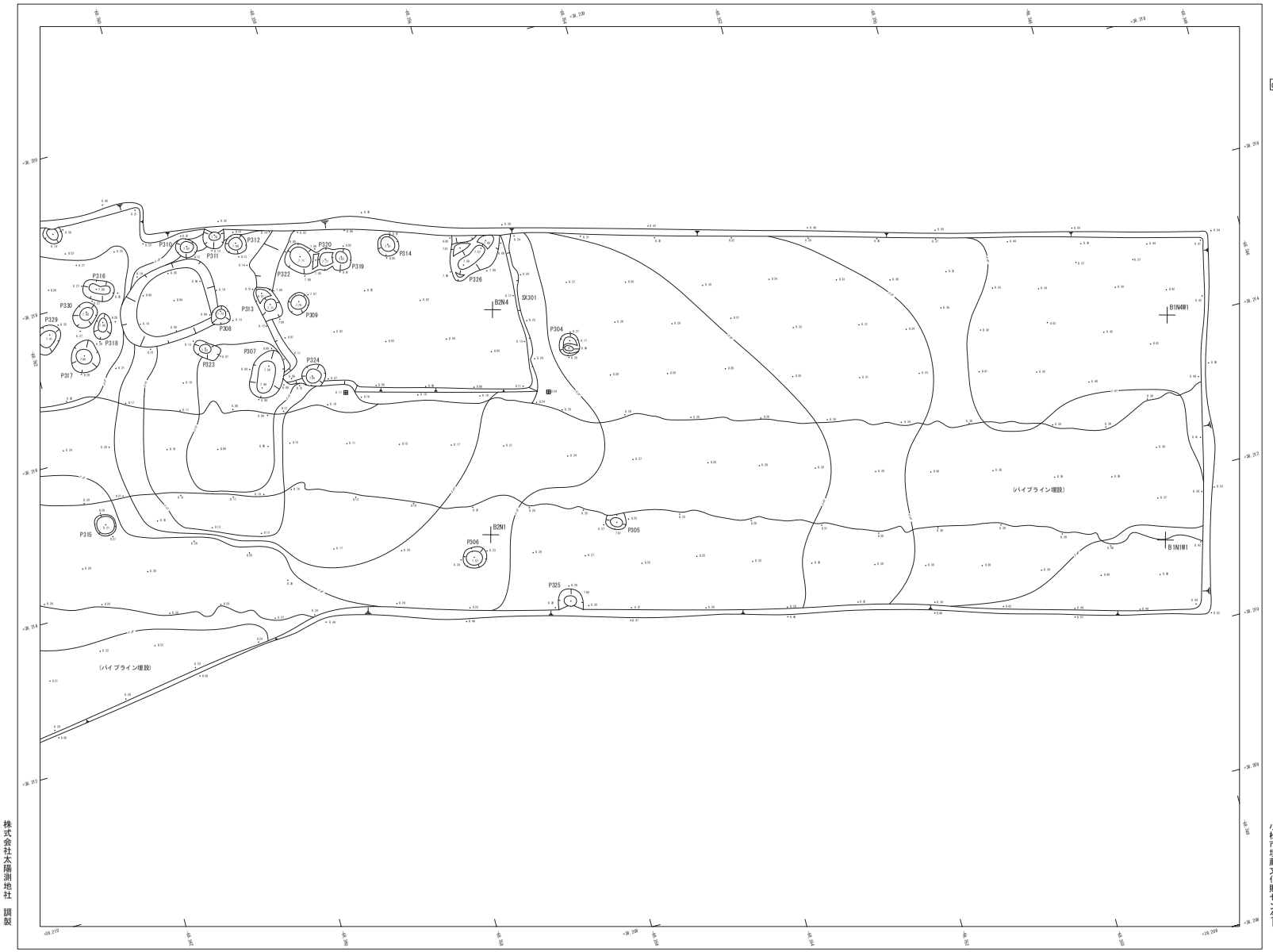
「世界測地系」
測地成果2011

1:80

図版 7　平成28年度　矢田新遺跡　平面図 7

図版　8

平成28年度　末田栄遺跡　古墳図8



株式会社太陽測地社　調製

撮　影　平成28年　12月　　MAVIC DRONE　　座　標　系　旧測系
測　図　平成28年　3月　　SUMMIT EVOLUTION　　等高線間隔　5cm

1:80
0　0.5　1　2　3　4m

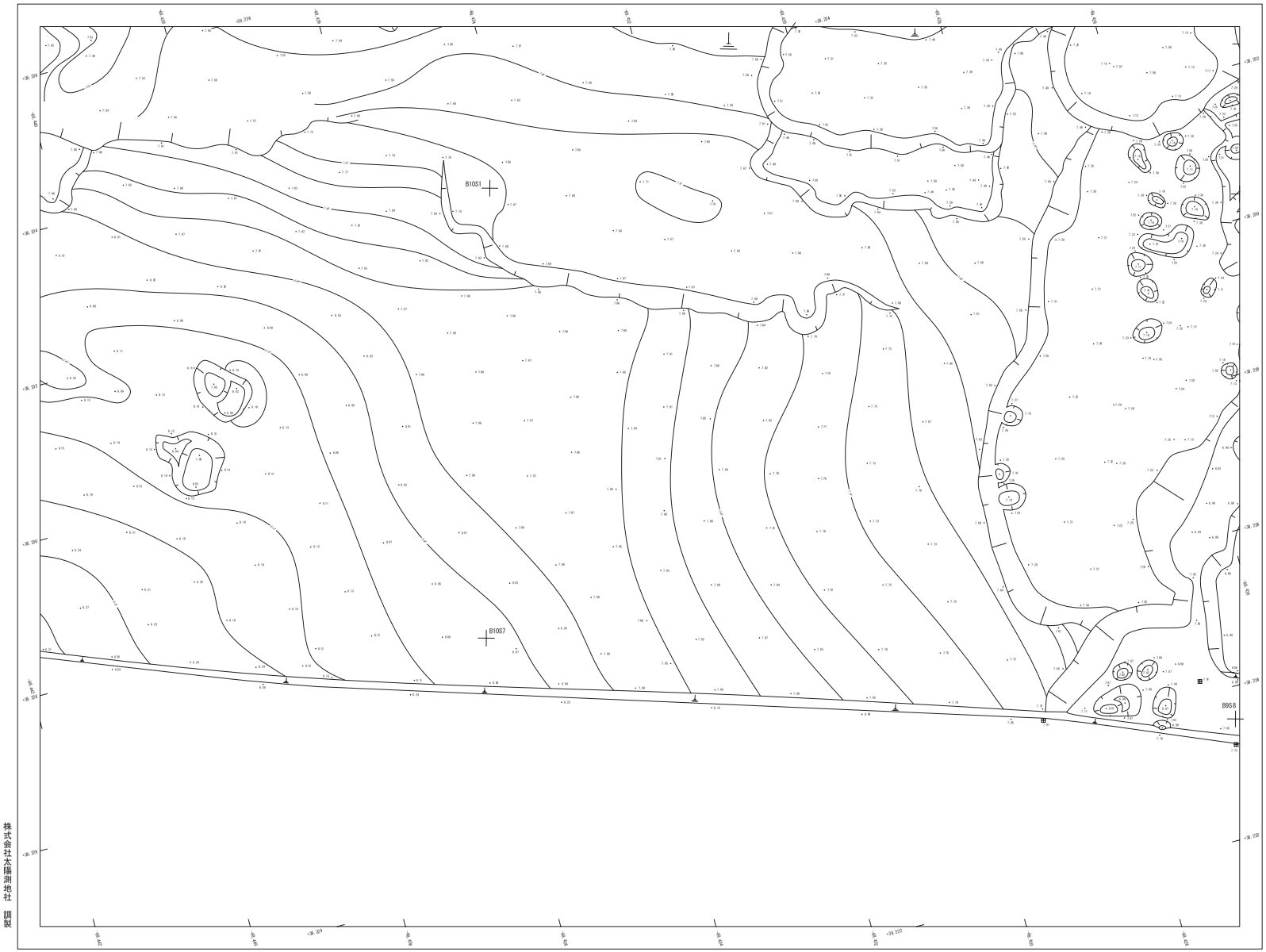
「世界測地系」
測地成果2011

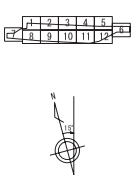
小松市埋蔵文化財センター

図版 9　平成28年度　矢田新遺跡　平面図 9

図版 10

平成28年度 木田集落遺跡 平面図 10





株式会社太陽測地社 調製

小松市埋蔵文化財センター

撮 影 平成28年 11月、12月　NIKON D800E　座 標 系 第Ⅵ系
測 図 平成28年 3月　SUMMIT EVOLUTION　等高線間隔 0.5m

1:80

「世界測地系」
測地成果2011

図版 11

平成28年度 矢田遺跡 平面図 11

株式会社 大陽測地社 調製

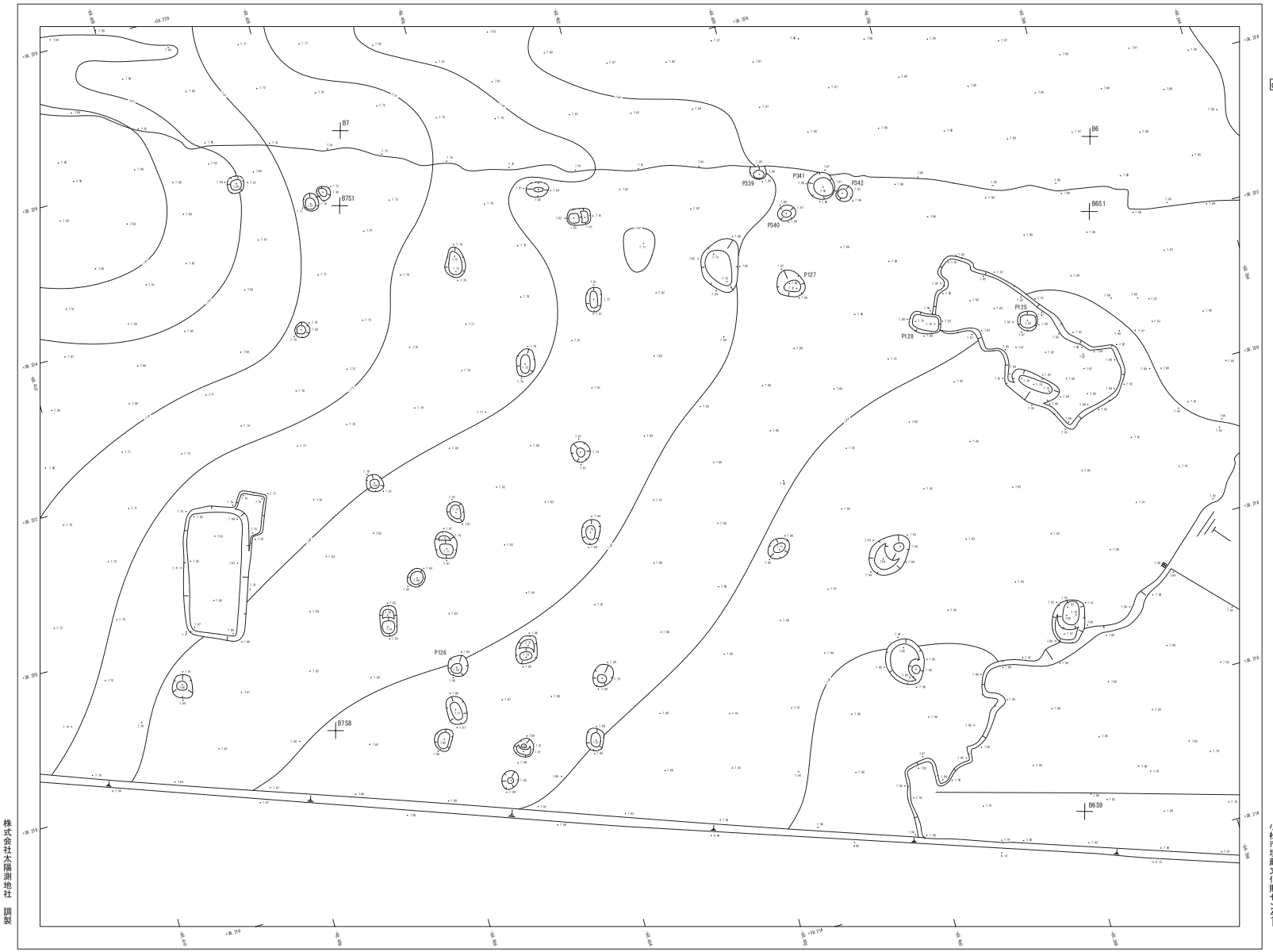
小松市埋蔵文化財センター

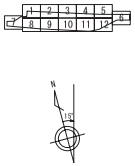
「世界測地系」
測地成果2011

1:80

図版12

平成28年度　矢田遺跡　平面図12





株式会社大陽測地社　調製

「世界測地系」
測地成果2011

小松市埋蔵文化財センター

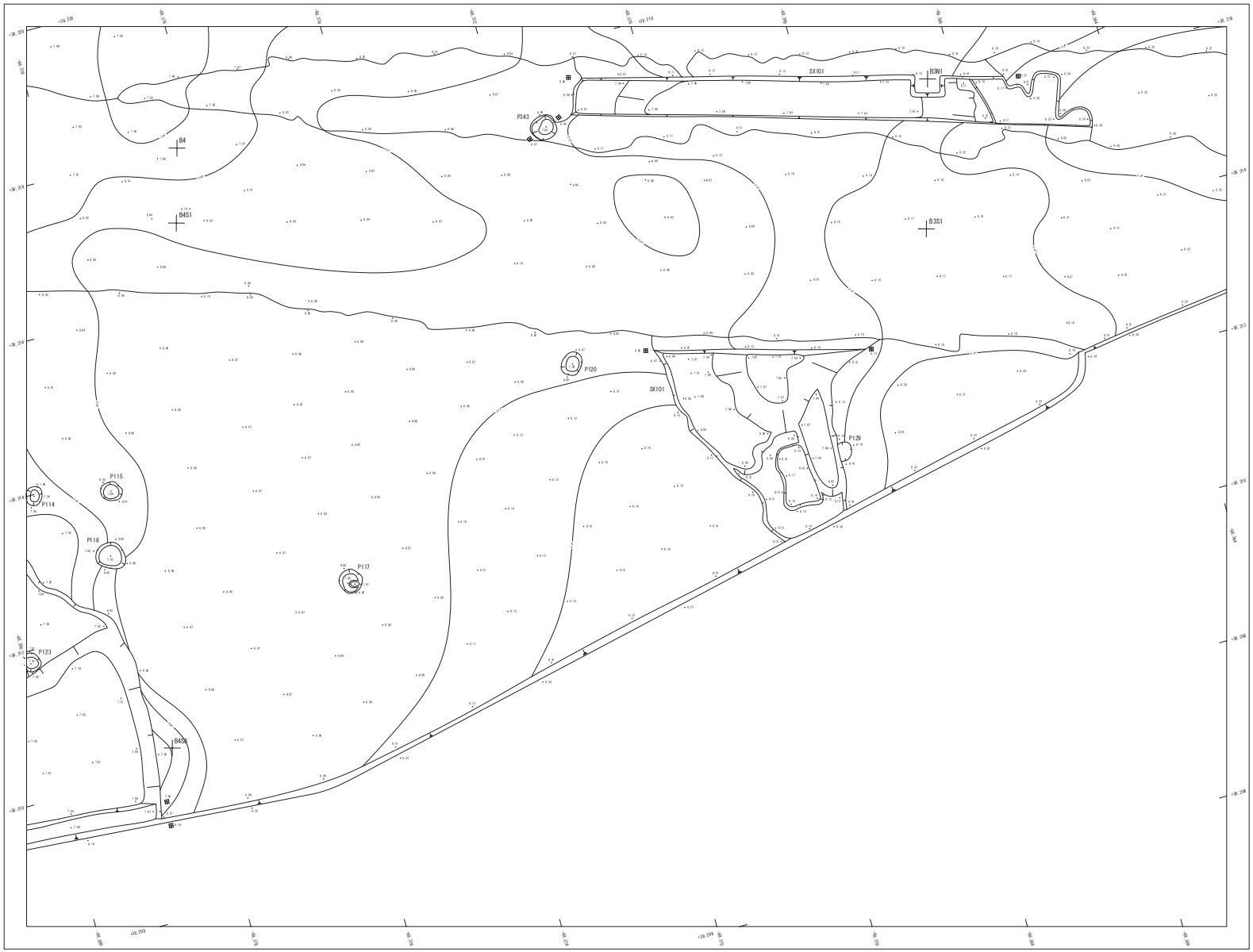
図版13　平成28年度　矢田新遺跡　平面図13

図版14

平成28年度

矢田遺跡

平面図14



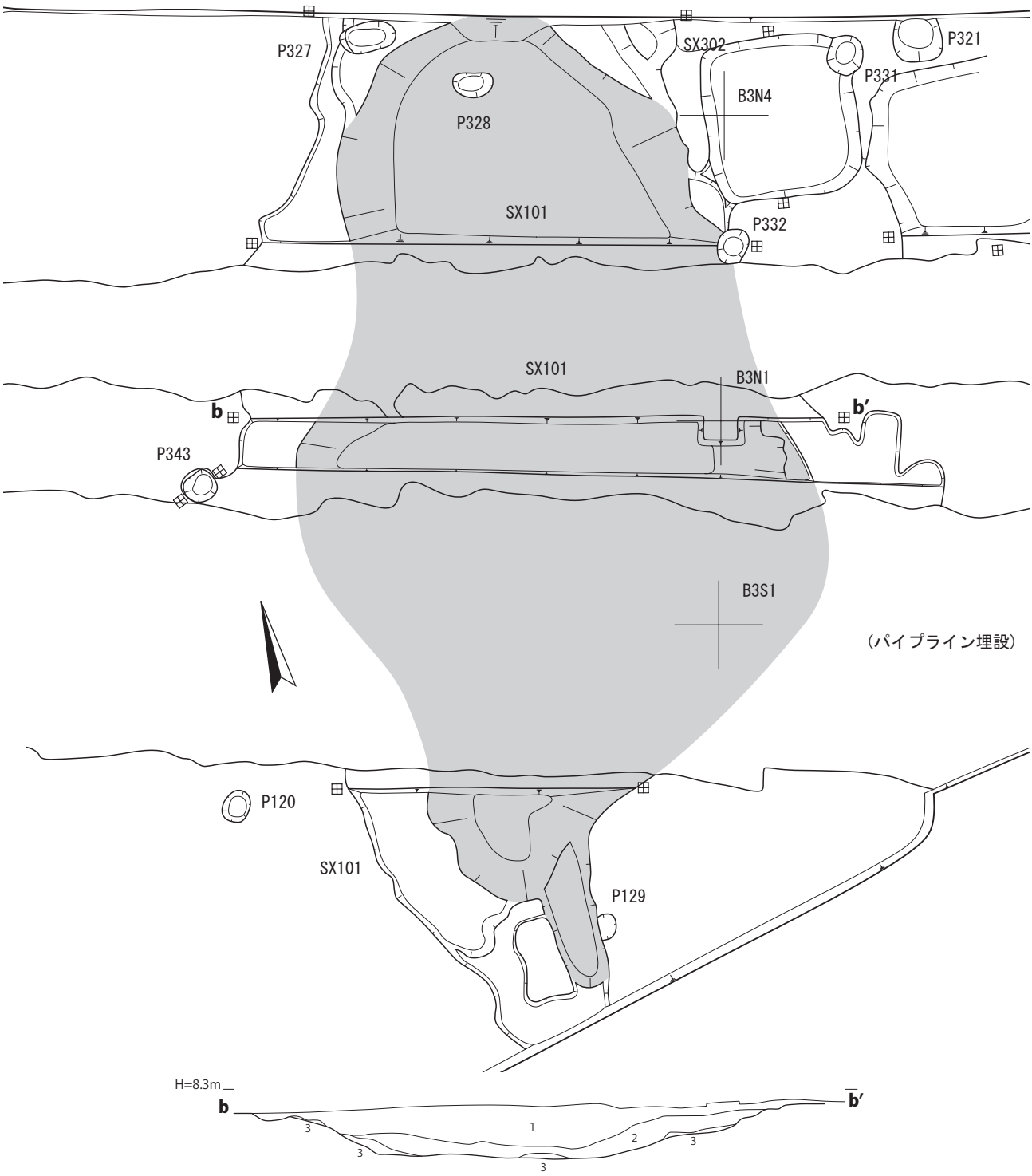
1:80

0 0.5 1 2 3 4m

「世界測地系」
測地成果2011

小松市埋蔵文化財センター

株式会社太陽測地社　調製

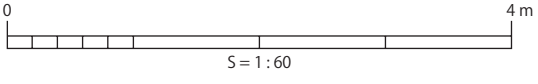


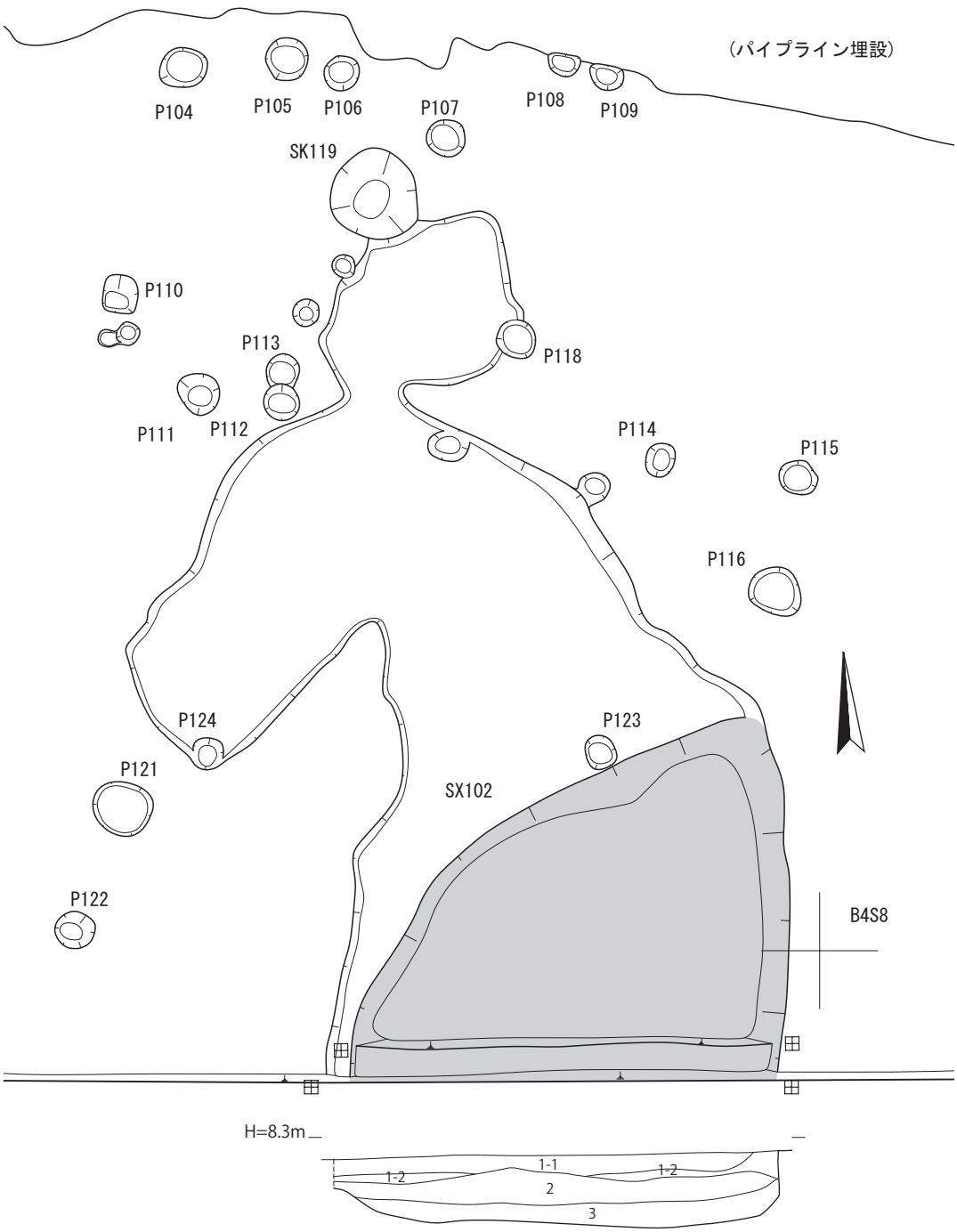
Hue V/C 色名 , 土性 , 堅密 , 摘要

1: 10YR 3/3 暗褐色 , 埴壌土 , 堅 , 10YR 4/6 褐色あり (10%) 10YR 8/4 浅黄橙色あり (< 5%)

2: 10YR 3/4 暗褐色 , 埴壌土 , 堅 , 10YR 4/6 褐色あり (< 5%)

3: 10YR 4/3 にぶい黄褐色 , 埴壌土 , 堅 , 10YR 5/6 黄褐色あり (10%)





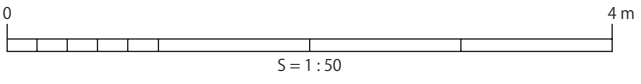
Hue V/C 色名 , 土性 , 堅密 , 摘要

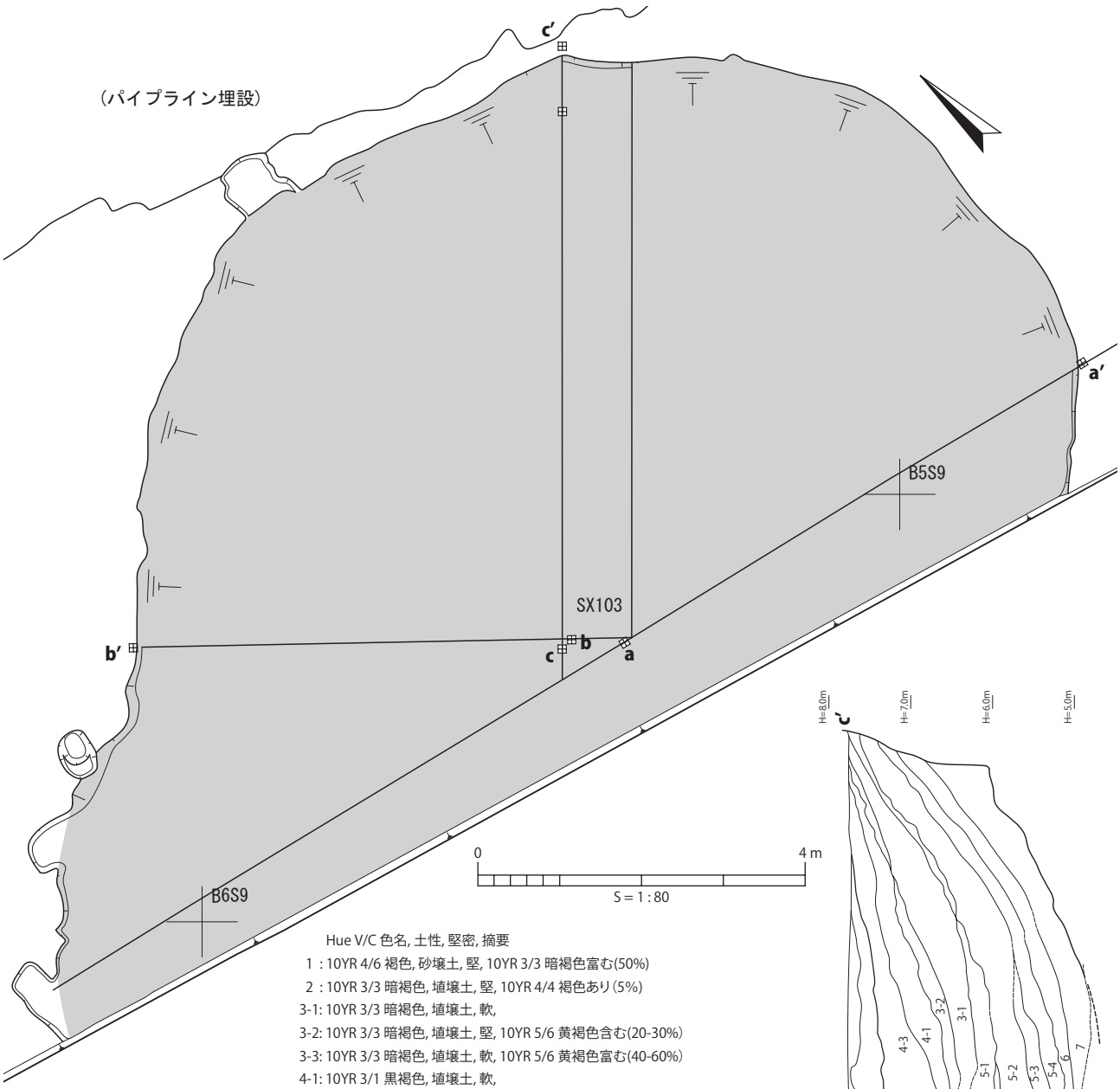
1-1: 10YR 2/3 黒褐色, 砂壌土, 軟, 耕作土

1-2: 10YR 2/3 黒褐色, 砂壌土, 軟, 10YR 5/6 黄褐色粘土粒少量混じる(5%)

2:　10YR 3/3 暗褐色, 埴壌土, 堅, 黄褐色粘土粒少量混じる(5%)

3:　10YR 3/1 黒褐色, 埴壌土, 堅, 10YR 5/6 黄褐色粘土粒少量混じる(5%)

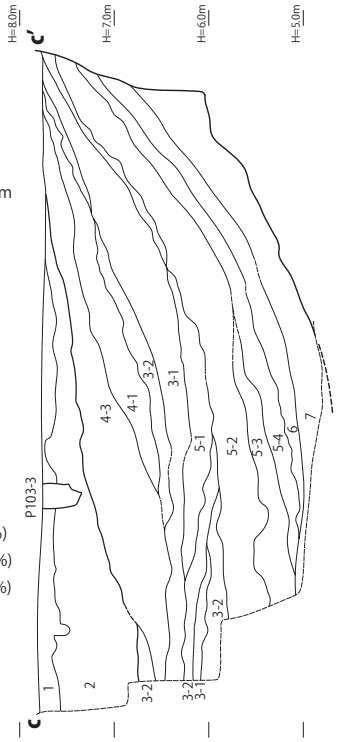


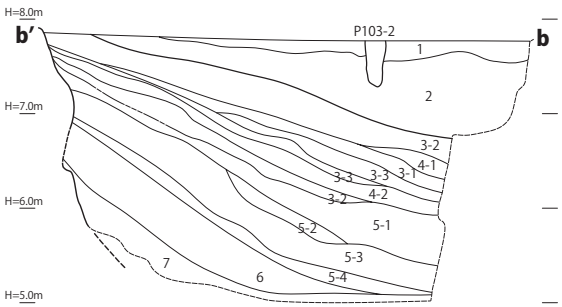


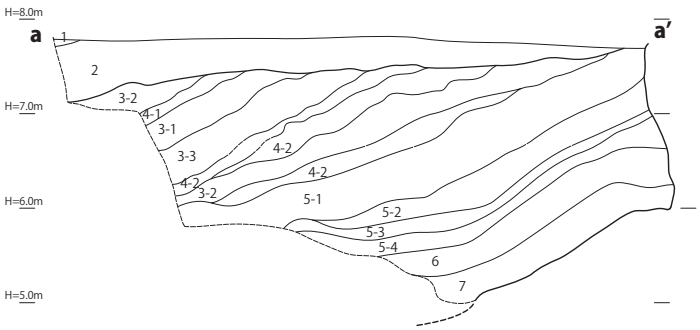
Hue V/C 色名, 土性, 堅密, 摘要

1 : 10YR 4/6 褐色, 砂壌土, 堅, 10YR 3/3 暗褐色富む(50%)
2 : 10YR 3/3 暗褐色, 埴壌土, 堅, 10YR 4/4 褐色あり(5%)
3-1: 10YR 3/3 暗褐色, 埴壌土, 軟,
3-2: 10YR 3/3 暗褐色, 埴壌土, 堅, 10YR 5/6 黄褐色含む(20-30%)
3-3: 10YR 3/3 暗褐色, 埴壌土, 軟, 10YR 5/6 黄褐色富む(40-60%)
4-1: 10YR 3/1 黒褐色, 埴壌土, 軟,
4-2: 10YR 3/1 黒褐色, 埴壌土, 軟, 10YR 5/6 黄褐色あり(10%)
4-3: 10YR 3/1 黒褐色, 埴壌土, 軟, 10YR 5/6 黄褐色富む(40%)
5-1: 10YR 5/6 黄褐色 , 埴壌土, 軟, 10YR 3/3 暗褐色富む(40%) 10YR3/1 黒褐色あり(5%)
5-2: 10YR 3/3 暗褐色, 埴壌土, 軟, 10YR 3/1 黒褐色富む(40%) 10YR5/6 黄褐色あり(10%)
5-3: 10YR 3/2 黒褐色, 埴壌土, 軟, 10YR 5/6 黄褐色富む(30%) 10YR3/1 黒褐色あり(10%)
5-4: 10YR 5/6 黄褐色, 埴壌土, 軟, 10YR 3/2 黒褐色密に混じる(40%), 埴壌土, 軟,
6 : 10YR 3/2 黒褐色, 砂壌土, 堅,
7 : 10YR 6/6 明黄褐色, 砂壌土, 堅,10YR 5/6黄褐色混じる(40%), 残土層

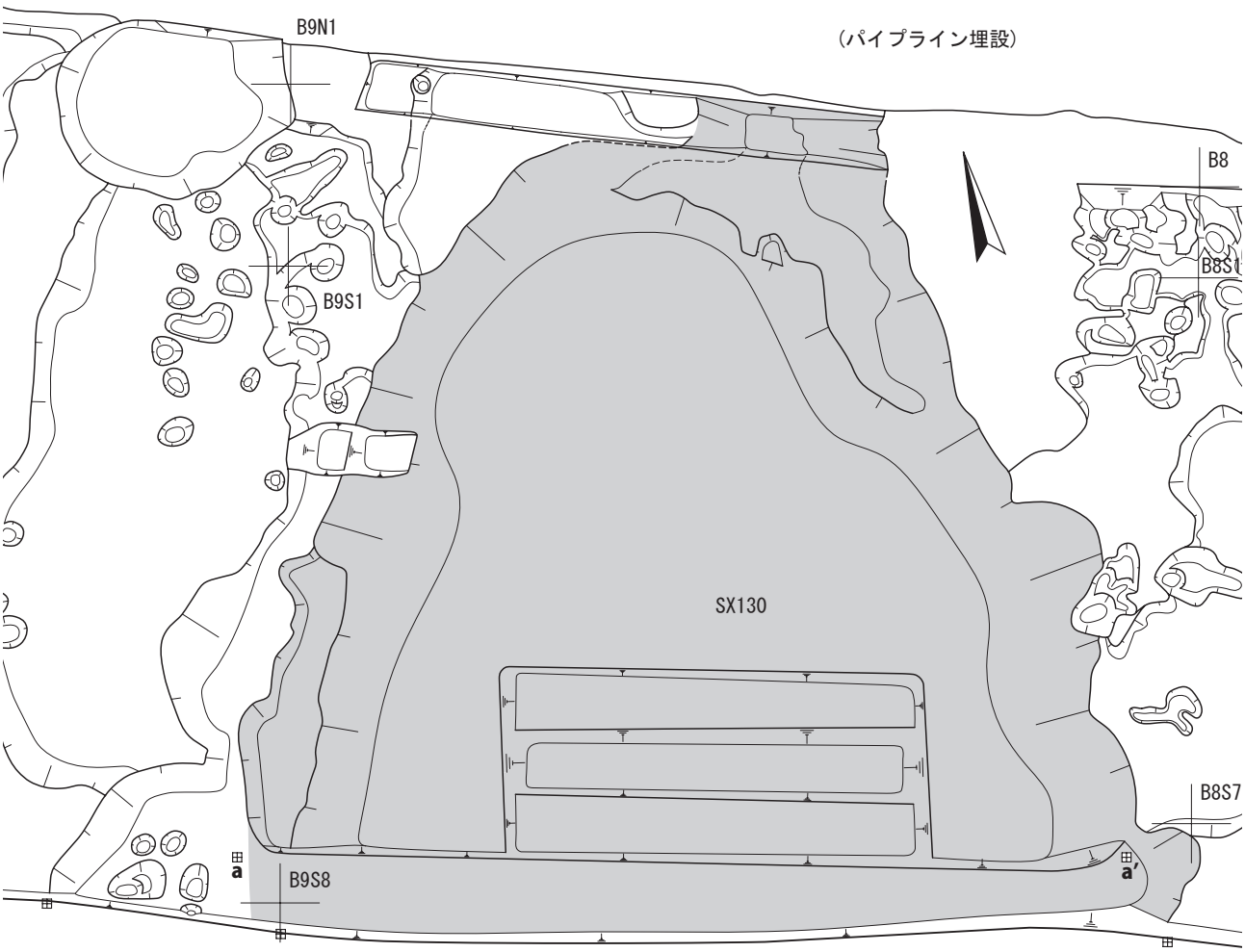
P103-2: 10YR4/3 にぶい黄褐色, 砂壌土, 堅,
P103-3: 10YR3/4 暗褐色, 砂壌土, 堅,

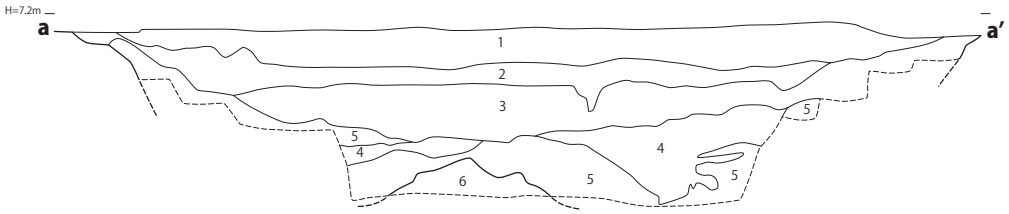






図版18　平成28年度　矢田新遺跡　遺構実測図4





Hue V/C 色名, 土性, 堅密, 摘要

1: 10YR 4/3 にぶい黄褐色, 砂壌土,堅 , 10YR 8/2 灰白色粘土粒あり(< 5%)

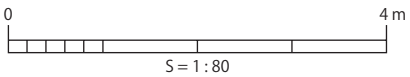
2: 10YR 3/3 暗褐色, 埴壌土, 軟,

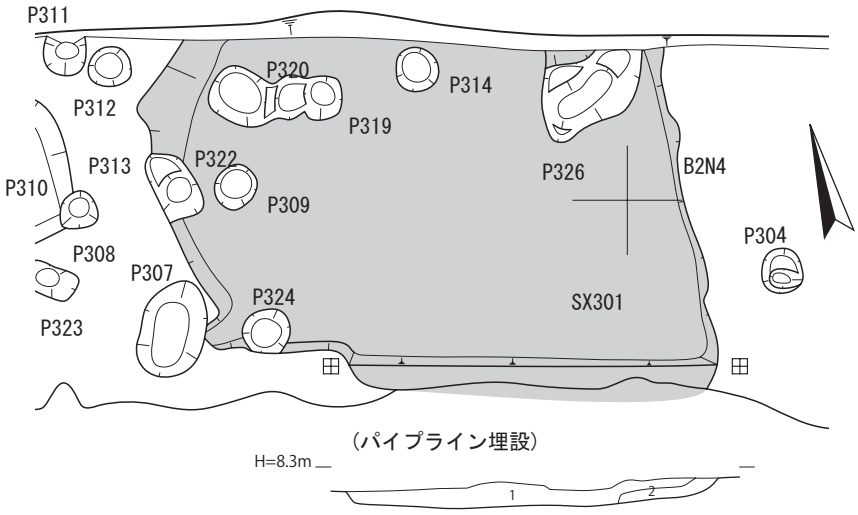
3: 10YR 4/4 褐色, 埴壌土, 軟, 10YR 5/6 黄褐色あり(5%)

4: 10YR 3/2 黒褐色, 埴壌土, 堅, 10YR 5/6 黄褐色含む(10%)

5: 10YR 4/6 褐色, 埴壌土, 堅, 10YR 8/4 浅黄橙色含む(20%) 10YR3/2 黒褐色あり(5%以下)

6: 10YR 8/4 浅黄橙色, 砂壌土,堅 , (地山層)

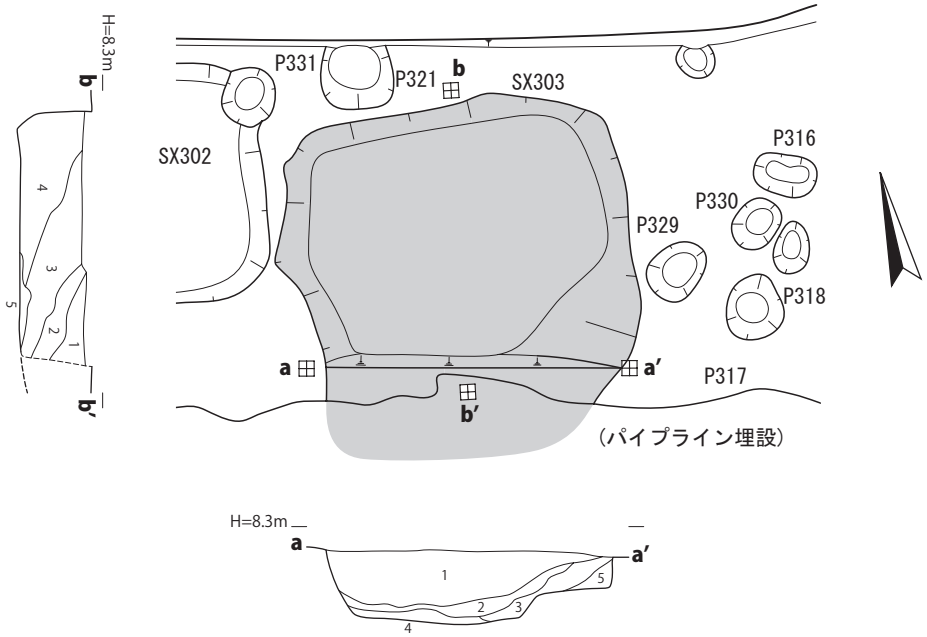




Hue V/C 色名 , 土性 , 堅密 , 摘要

1: 10YR 3/3 暗褐色 , 埴壌土 , 軟弱 , 10YR 4/6 褐色あり (5%)

2: 10YR 4/6 褐色 , 埴壌土 , 軟弱 , 10YR 3/3 暗褐色富む (40%) (残土層)



Hue V/C 色名 , 土性 , 堅密 , 摘要

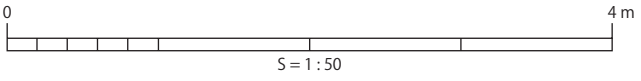
1: 10YR 4/6 褐色, 埴壌土 , 堅, 10YR 3/3 暗褐色あり(10%)

2: 10YR 3/3 暗褐色, 埴壌土 , 堅, 10YR 4/6 褐色含む(30%)

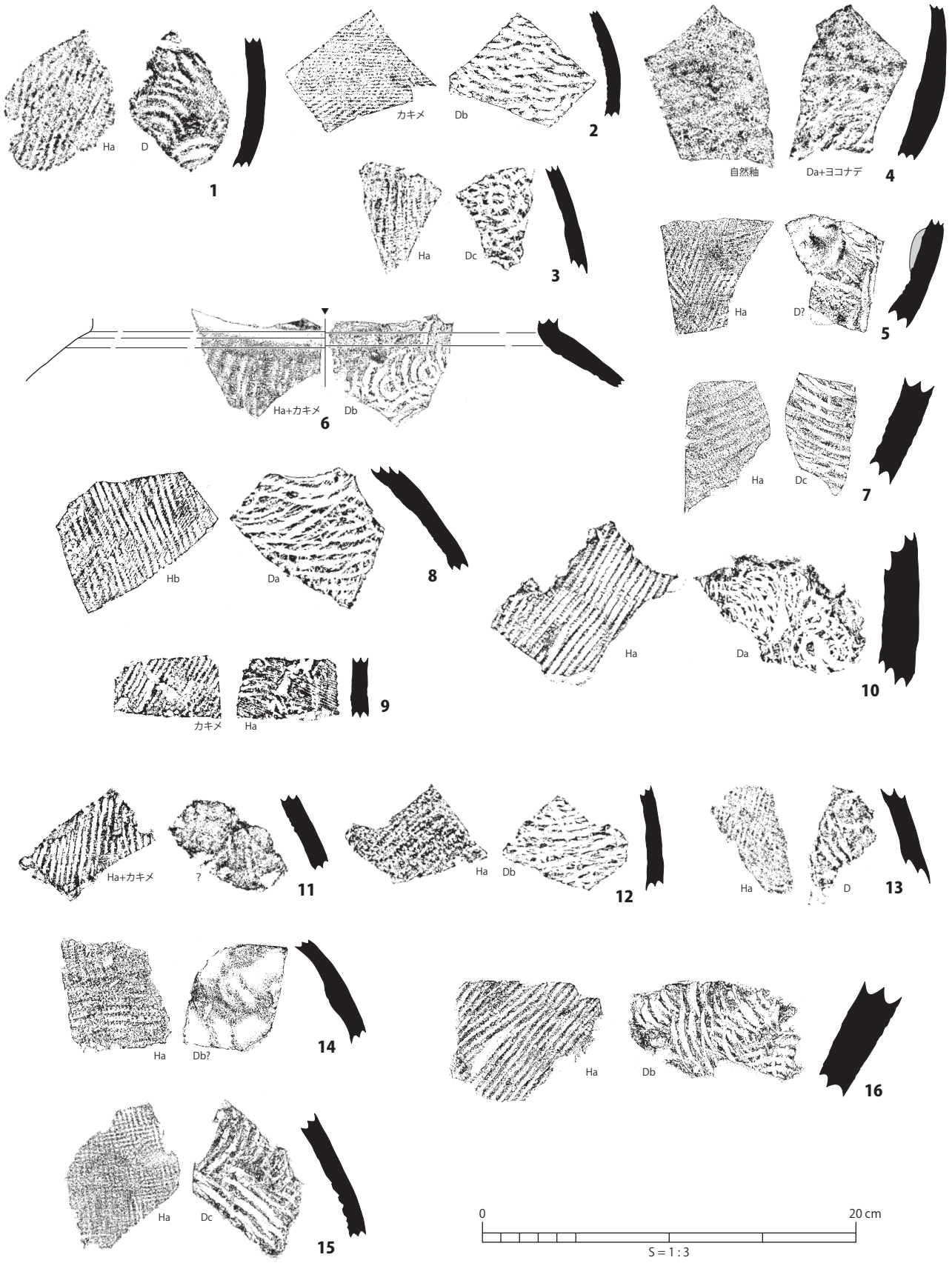
3: 10YR 4/6 褐色, 埴壌土 ,堅, 10YR 3/3 暗褐色含む(30%)

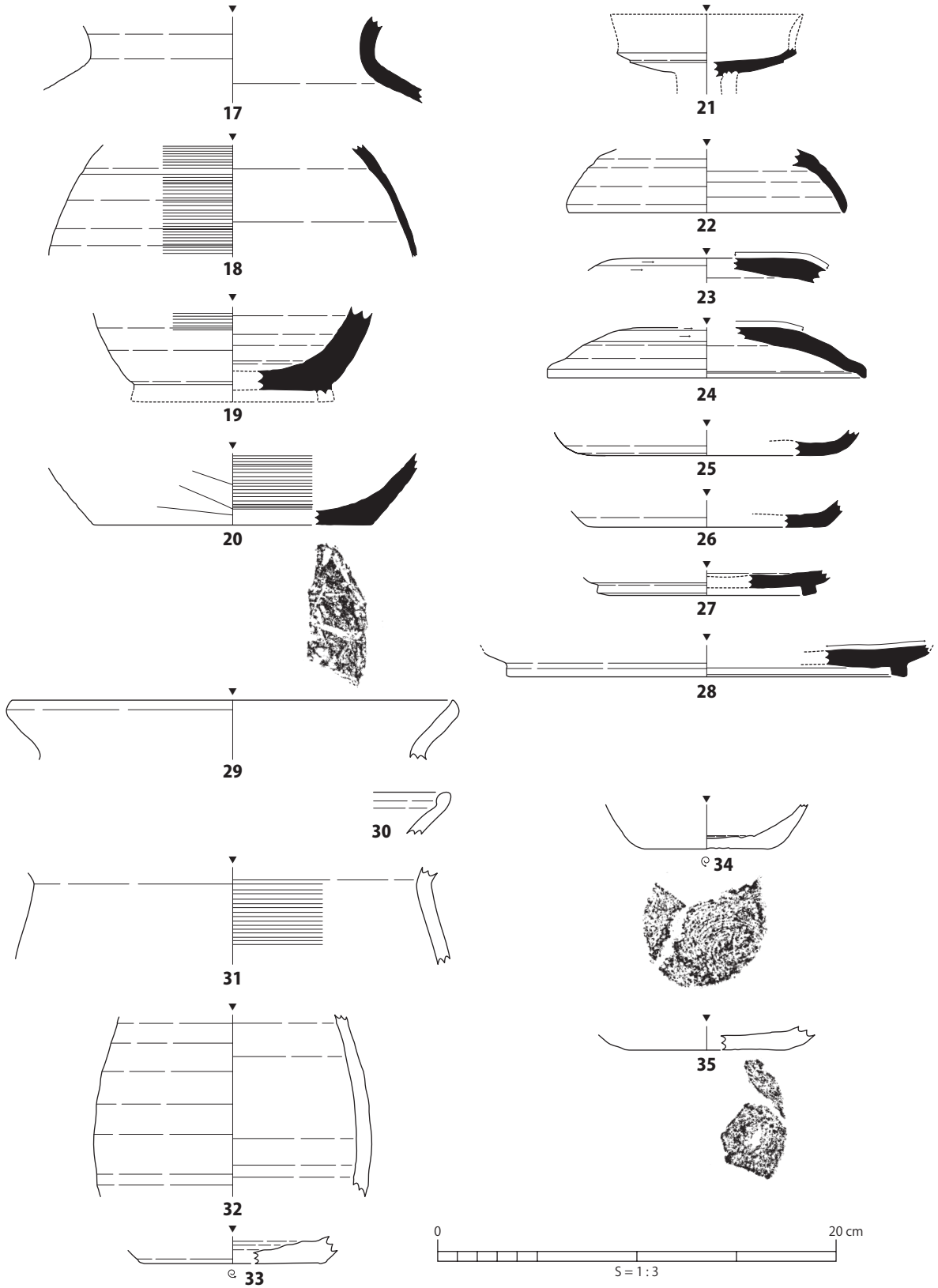
4: 10YR 3/3 暗褐色, 埴壌土 , 軟, 10YR 4/6 あり(10%)

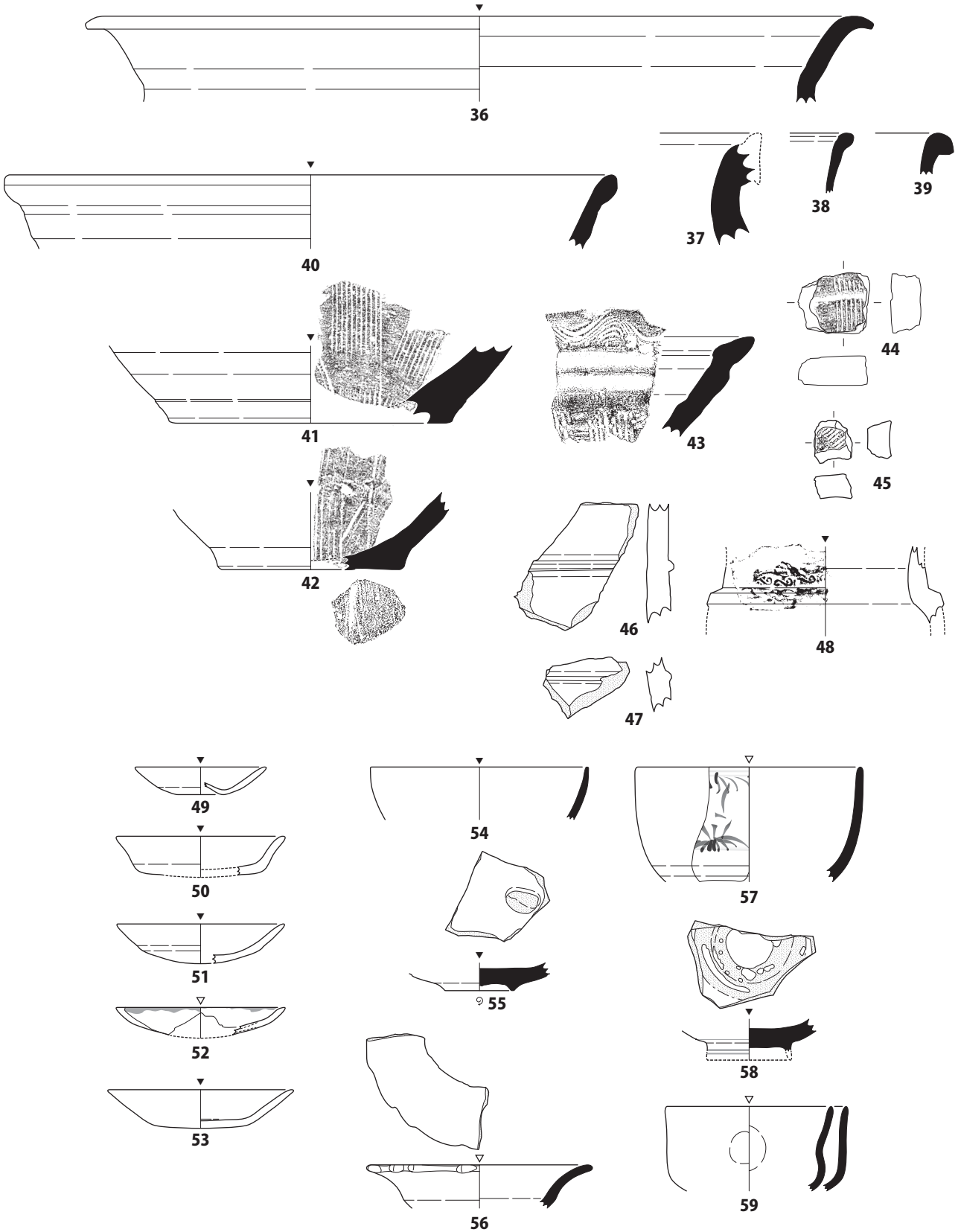
5: 10YR 3/3 暗褐色, 埴壌土 , 堅, 10YR 8/4 浅黄橙色あり(10%) 10YR 4/6 褐色あり(10%)

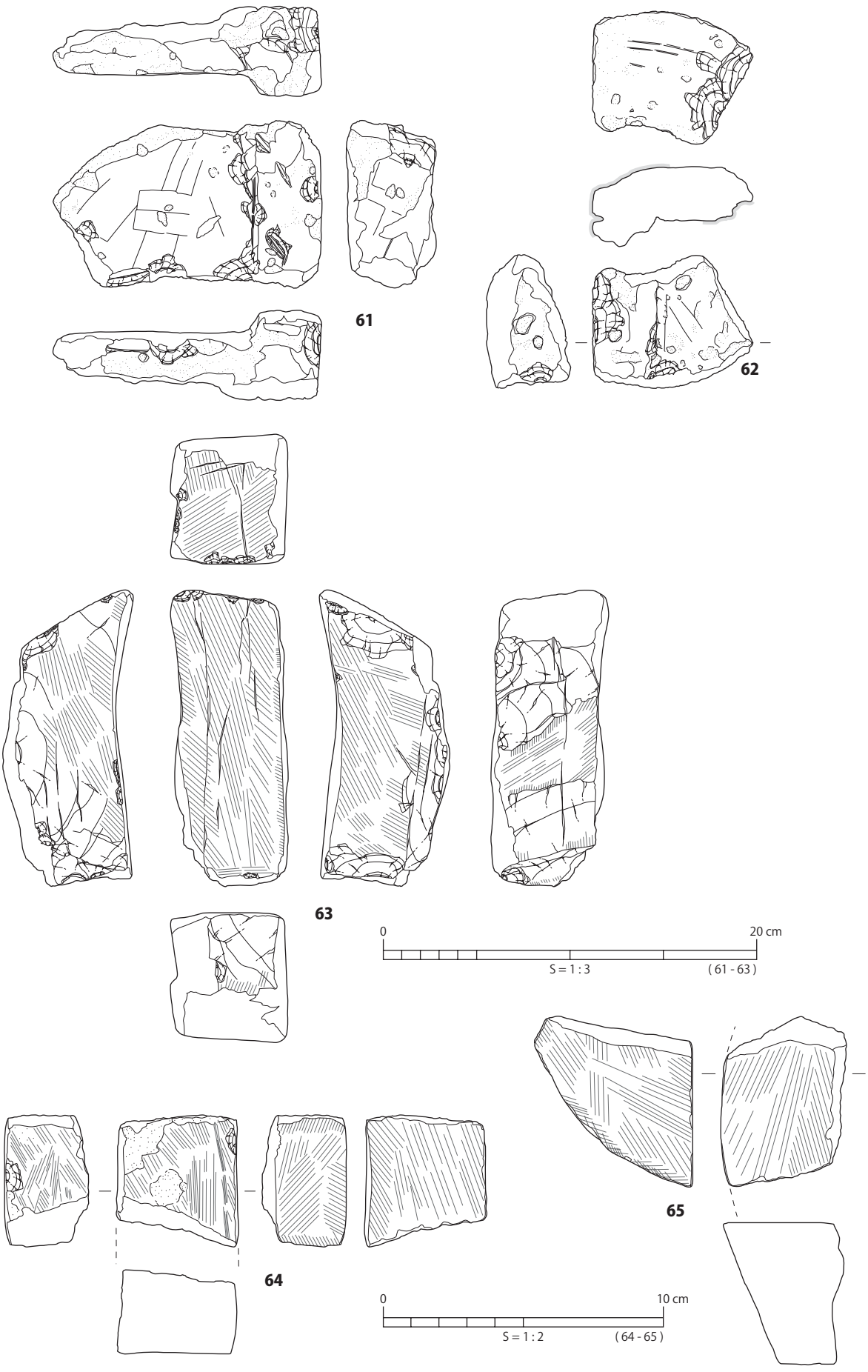


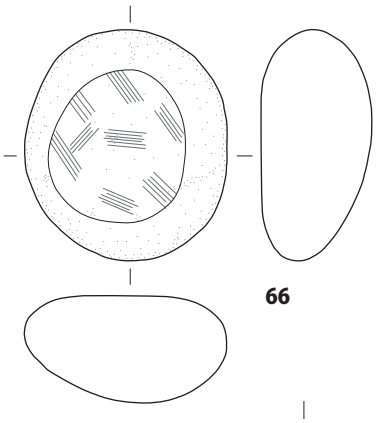
図版20　平成28年度　矢田新遺跡　出土遺物実測図1



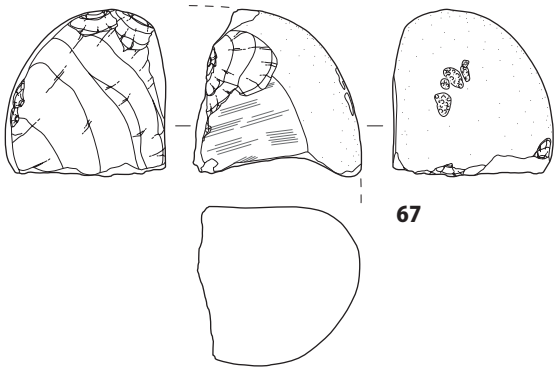

17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
0
20 cm
S = 1 : 3


36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
0
20 cm
S = 1 : 3

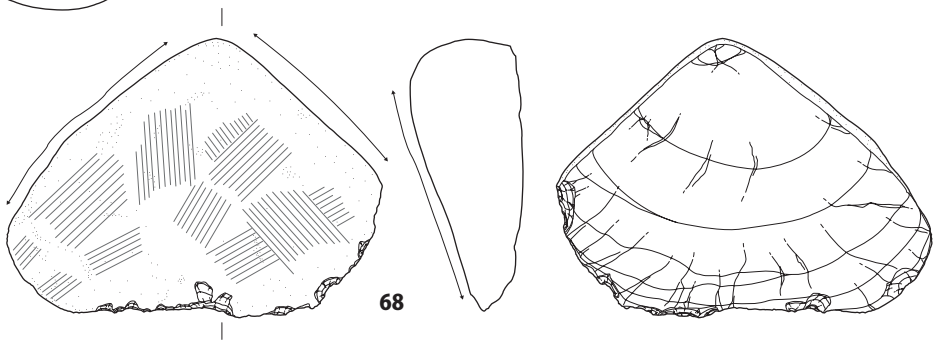

61
62
63
0
20 cm
S = 1 : 3
(61 - 63)
64
65
0
10 cm
S = 1 : 2
(64 - 65)



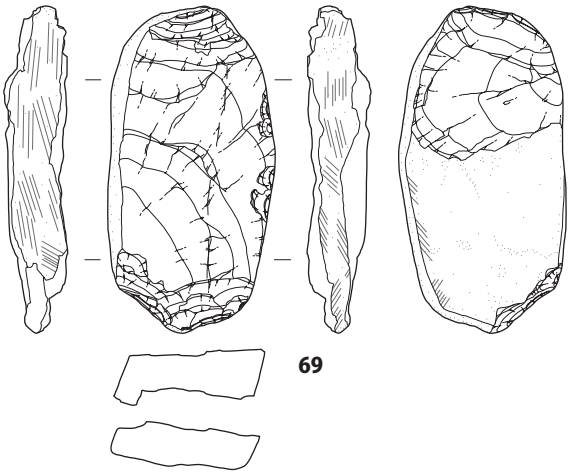
66



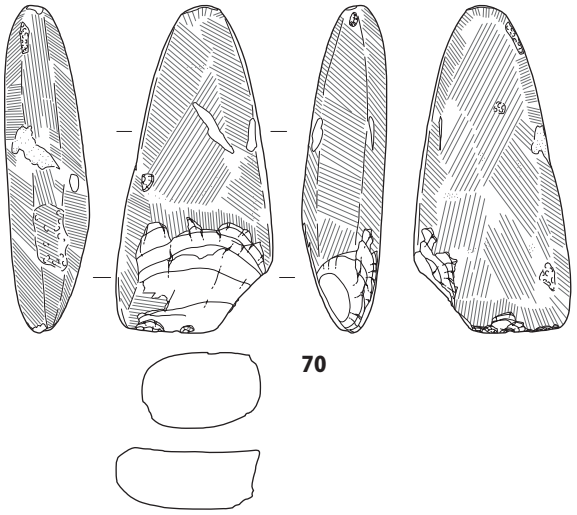
67



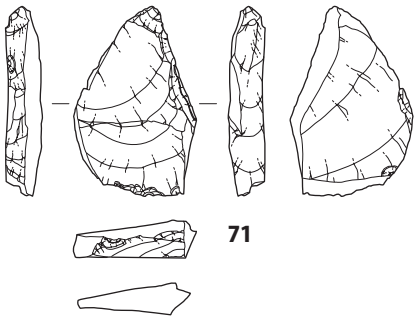
68



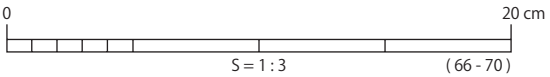
69

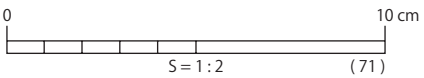


70



71





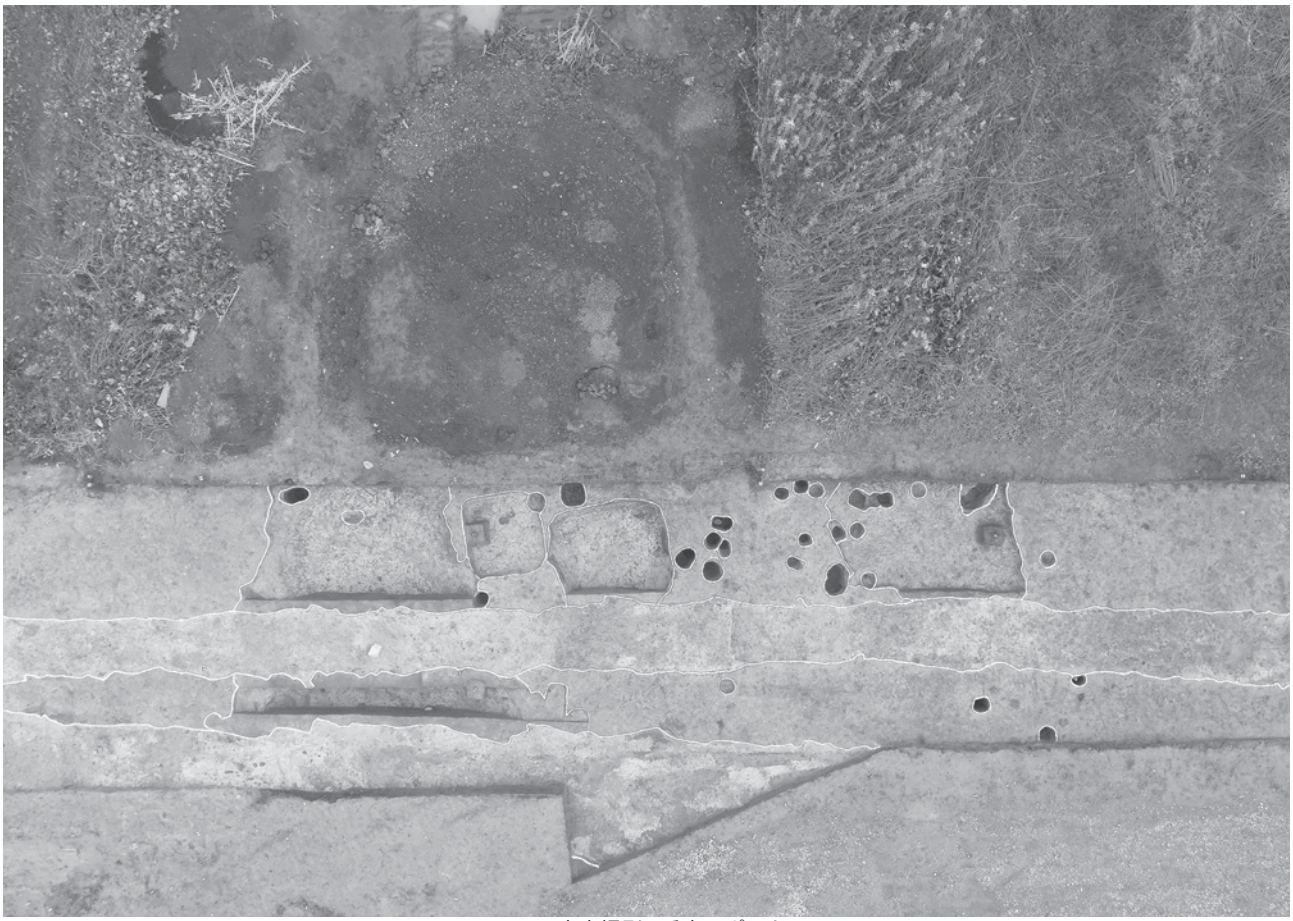
Ⅰ区　空中撮影 (俯瞰)

Ⅰ区　空中撮影 (垂直)

Ⅱ区　空中撮影 (俯瞰)

Ⅱ区　空中撮影 (垂直)

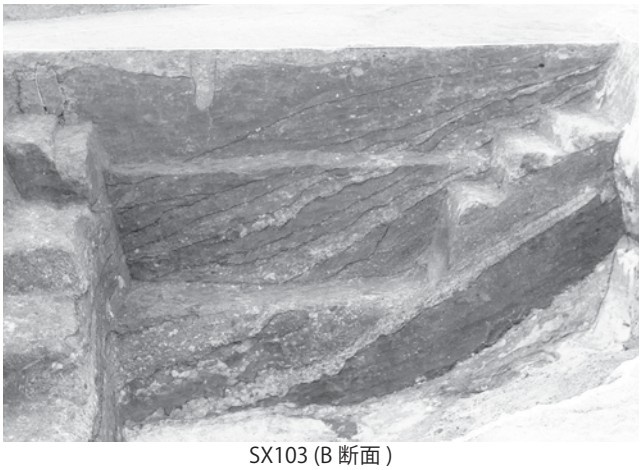
III 区　空中撮影 (垂直)



III 区　空中撮影 (垂直スポット)

SX103 (垂直撮影)

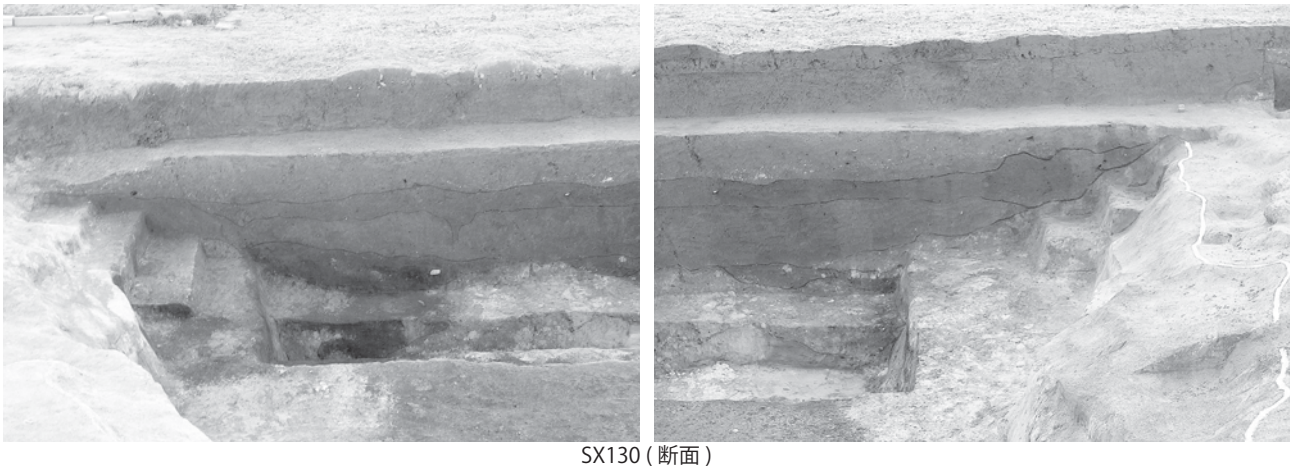
SX103 (A 断面)



SX103 (B 断面)

SX103 (C 断面)

SX130 (垂直撮影)



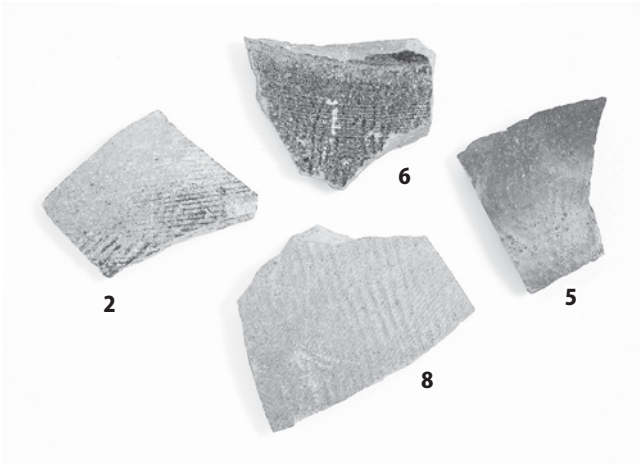
SX130 (断面)

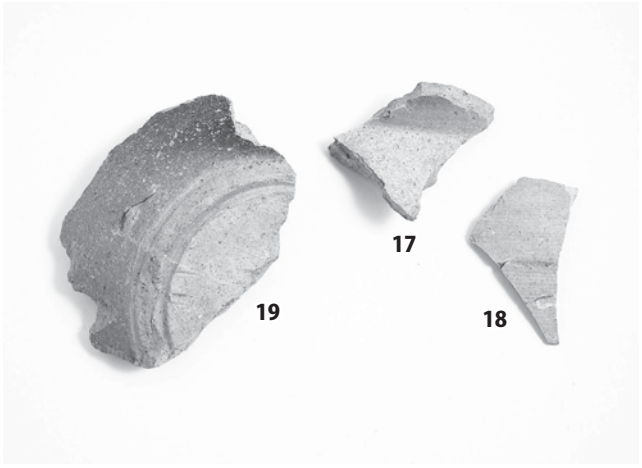
地元の公民館行事の様子 (体験発掘)

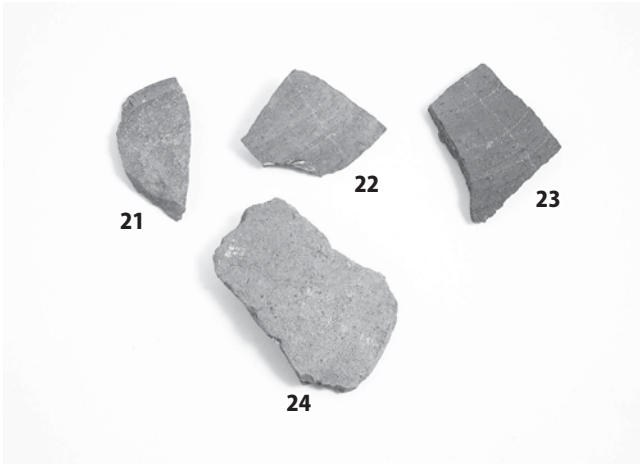
作業状況（Ⅰ区）

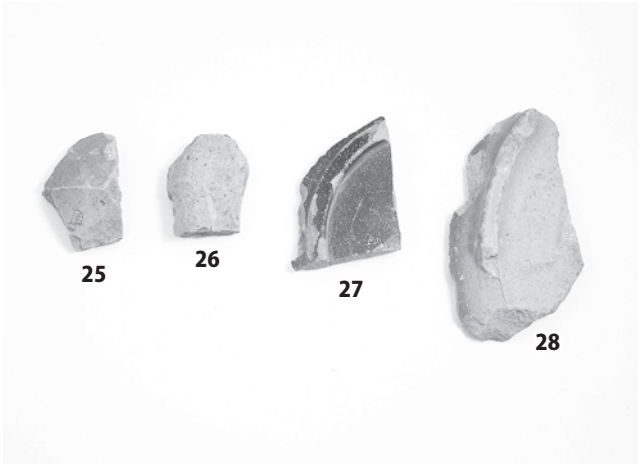
作業状況（Ⅲ区）

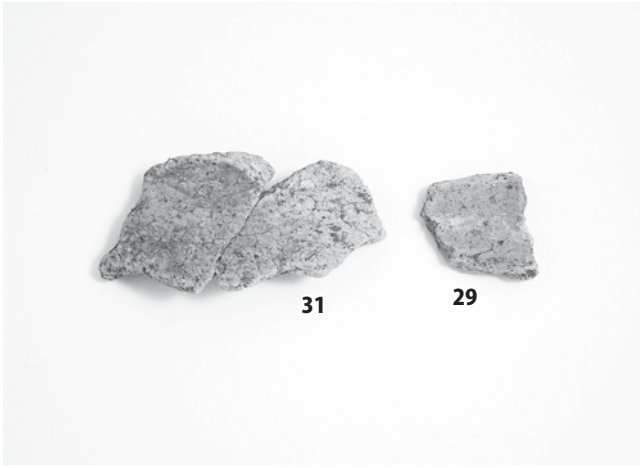
空中写真撮影


2
6
5
8


19
17
18

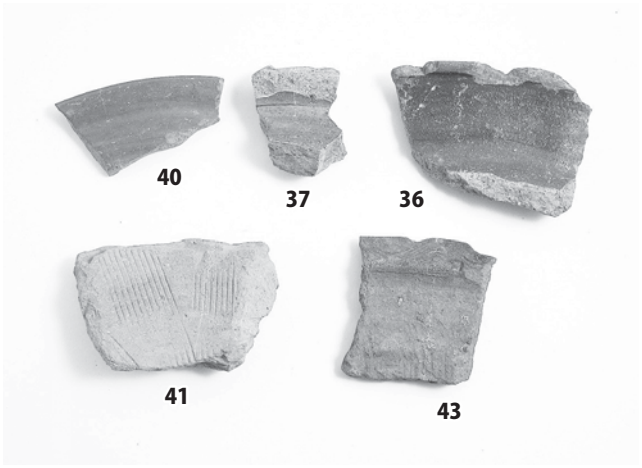

21
22
23
24

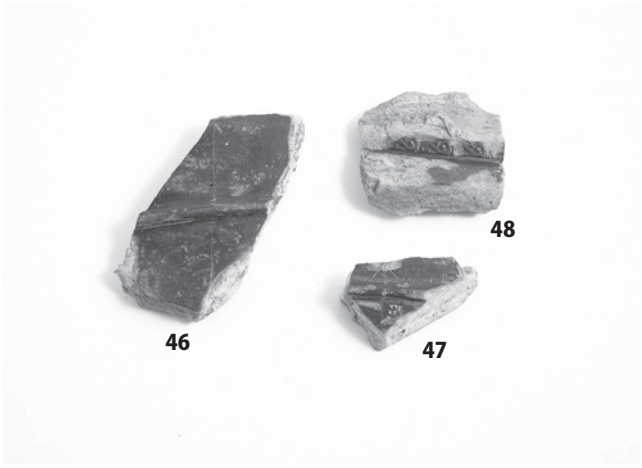

25
26
27
28

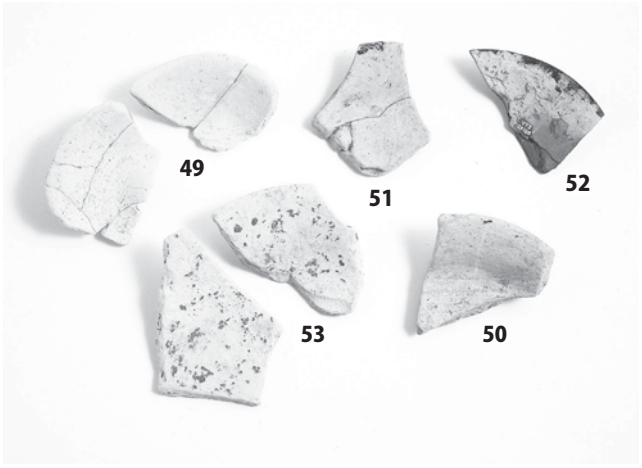

31
29

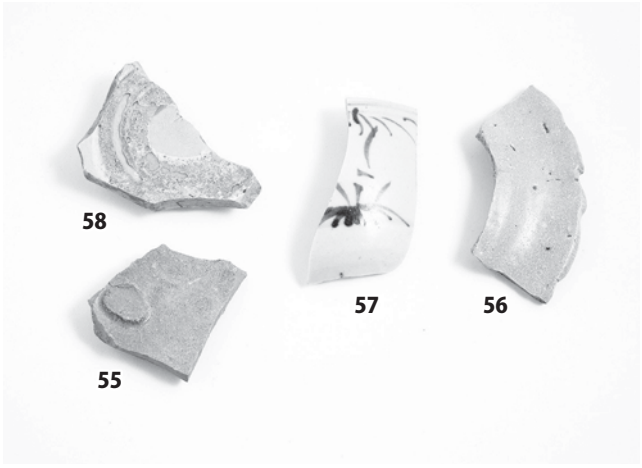
32
33

34
35

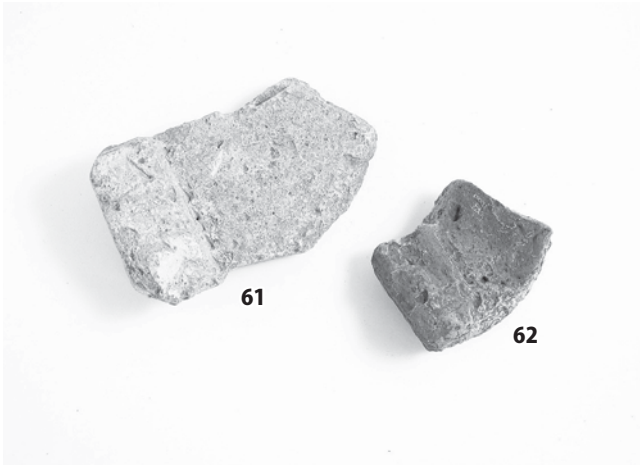

40
37
36
41
43


46
48
47

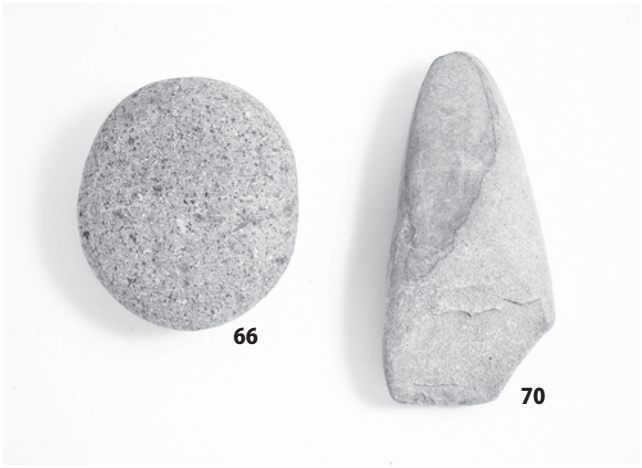

49
51
52
53
50


58
57
56
55

60


61
62

63


66
70

71

報 告 書 抄 録

ふりがな	やたしんいせき
書　　名	矢田新遺跡
副 書 名	地方道改築事業 南加賀道路（粟津ルート）に伴う新設道路工事に係る 埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	
編・著者名	宮田　明
編 集 機 関	小松市埋蔵文化財センター
所 在 地	〒923-0075　石川県小松市原町ト77-8　TEL (0761) 47-5713
発行年月日	西暦2018年3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 (m²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
やたしん 矢田新	いしかわけんこまつし 石川県小松市 やたしんまち 矢田新町	17203	03108	36° 20′ 20″	136° 24′ 7″	2016. 8.29～ 2016.12.14	1,410	地方道改築事業 南加賀道路 （粟津ルート）に 伴う新設道路工事

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
やたしん 矢田新	集　落	縄　文 古　代 中　世 近　世	大型土坑2 不明遺構2 土坑3	須恵器、土師器、越前、珠洲、瓦質土器、 肥前系陶磁器、磨製石斧、磨石類、砥石、 行火	
要　約	遺物の多くは2基の大型土坑を埋め戻した層から出土、掘削時期は不明。				

矢田新遺跡

地方道改築事業 南加賀道路（粟津ルート）に伴う新設道路工事に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成 30 年 3 月 30 日　発行

編集・発行　小松市埋蔵文化財センター
石川県小松市原町ト 77-8　TEL (0761) 47-5713

印　　刷　ホクト印刷株式会社
石川県小松市日の出町３-106-1　TEL (0761) 22-7170